

○公立農學校實驗用ニ供スル地所地租地方稅免除方

(明治十六年十二月二十二日大政官布告第四十四號)

公立農學校所有ニシテ實驗用ニ供スル地所ハ每一校五町步以內其地租及ヒ地方稅ヲ
免ス

公立農學校實驗用ニ供スル地所地租地方稅免除方

○公立農學校實驗用田圃ニ供スル官有地無借地料使用方

(明治十六年十二月二十日太政官達第四十五號)

府 縣

公立農學校ニ於テ實驗用田圃ニ供スル爲メ官有地ヲ要スル時ハ每一校五町歩以內無借地料使用差許候條官有地ノ內差支ナキ場所ヲ撰ミ內務省ヘ申出ヘシ此旨相達候事

◎職員名稱及待遇

○實業學校教員ノ實業學校教員養成規程第十一條ノ
義務期間内ニ於ケル轉任退職休職ノ場合經何方

(明治三十三年一月十三日文部省訓令第一號)

北海道廳 府縣

明治三十二年文部省令第十三號實業學校教員養成規程第十一條ニ依リ實業學校及其
他ノ教職ニ從事スル者ニ其ノ服務期間内ニ於テ轉任、退職若クハ休職ヲ命セントス
ルトキハ豫メ其ノ事由ヲ具シ文部大臣ノ指揮ヲ受クヘシ (明治三十三年文部省訓令第八號
ヲ以テ改正) (明治三十二年文部省令第十三號ハ、三十五年四月一日省令第九號ヲ以テ改正)

實業學校教員ノ實業學校教員養成規程第十一條ノ義務期間内ニ於ケル
轉任退職休職ノ場合經何方

明治二十七年九月十一日
文部省告示第七號
工業教員タルニ適當スヘキ者ノ認定
依リ工業教員タルニ適當ナリ

◎教員資格

○工業教員タルニ適當スヘキ者ノ認定 明治二十七年九月十一日
文部省告示第七號

明治二十七年文部省令第二十號徒弟學校規程第十條ニ依リ工業教員タルニ適當ナリ
ト認ムルモノ左ノ如シ

- 一 工業教員養成所卒業生
- 二 東京工業學校又ハ元東京職工學校卒業生
- 三 師範學校手工科教員免許狀ヲ有スル者
- 四 東京美術學校卒業生
- 五 帝國大學工科大學又ハ元工部大學校卒業生
- 六 其ノ他文部大臣ニ於テ工業教員タルノ認可ヲ與ヘタル者

工業教員タルニ適當スヘキ者ノ認定

◎實業教育費補助

○實業教育費國庫補助法

明治二十七年六月十一日
法律第二十一號

第一條 實業教育ヲ獎勵スル爲國庫ハ毎年豫算ヲ以テ定ムル所ノ金額ヲ支出ス

(明治三十一年法律第八號全三十四年法律第一號ヲ以テ改正)

第二條 公立ノ工業農業商業商船學校、徒弟學校及實業補習學校ニシテ實業ノ教育

ニ效益アリト認ムルトキハ文部大臣ハ其ノ學校ニ補助金ヲ交付スヘシ

監督官廳ノ認可ヲ經タル農工商組合ニ於テ設立シタル實業學校ハ文部大臣ノ特別

ノ認定ニ依リ前項ニ準スルコトヲ得 (同上本條改正)

第三條 各學校ニ交付スル補助金ハ其ノ設立者ノ負擔額ト同額以內ニ限ル

第四條 補助ヲ受クヘキ學校ハ文部大臣ノ認可シタル學則ニ依リ及同大臣ノ定ムル

必要ノ條件ヲ充タスモノニ限ル

第五條 此ノ法律ニ依リ補助ヲ受クル學校ノ設立者ハ補助年期間其ノ學校經費ヲ繼

續支出スルノ義務アルモノトス

第六條 各學校ニ補助金ヲ交付スルハ五箇年ヲ以テ一期トス滿期ノ後必要ニ依リ仍

之ヲ繼續スルコトヲ得但シ文部大臣ニ於テ學校ノ管理不適當ナリト認メタルトキ

又ハ第四條其ノ他文部大臣ノ定ムル所ノ規則ニ違背シタルトキ又ハ第五條ノ義務

ヲ盡スコト能ハサルトキハ補助年期間ト雖補助ヲ廢止若ハ停止スルコトヲ得

第七條 第二條ニ掲クル學校ノ教員ヲ養成スルノ必要アルトキハ文部大臣ハ第一條ニ掲クル金額ヨリ八分ノ一以内ヲ支出シ其ノ費用ニ充ツルコトヲ得 (同上)

第八條 此ノ法律施行ノ爲ニ必要ナル規則ハ文部大臣之ヲ定ム
(明治三十二年文部省令第二十號ヲ以テ施行規則改正公布)

附 則

第九條 此ノ法律ハ明治二十七年九月一日ヨリ施行ス

○實業教育費國庫補助法施行規則 明治三十二年三月三十日 文部省令第二十號

第一條 實業教育費國庫補助法ニ依リ補助ヲ受ケントスルトキハ學校管理者ヨリ文部大臣ニ申請スヘシ但實業補習學校ニ在リテハ明治三十二年文部省令第十二號實業學校設置廢止規則第一條第一項各號ノ事項ヲ具スヘシ

第二條 補助ヲ受クル學校ノ收支豫算ハ每會計年度前ニ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ但年度内ニ追加豫算ヲ議決シタルトキハ其都度文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ
收支決算ハ每會計年度經過後府縣郡市町村會又ハ組合會ノ認定ヲ經タル上直ニ文部大臣ニ報告スヘシ

第三條 補助ヲ受クル實業補習學校ニ於テハ明治三十二年文部省令第十二號實業學校設置廢止規則第一條第一號乃至第四號ノ變更ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ第十號ノ變更ハ文部大臣ニ開申シ第六號ノ變更ハ道廳府縣立ノ學校ニ在リテハ圖面ヲ具シ文部大臣ニ開申シ其ノ他ノ學校ニ在リテハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ
前項ニ依リ地方長官ニ於テ認可ヲナシタルトキハ圖面ヲ具シ文部大臣ニ開申スヘシ
(明治三十六年三月五日文部省令第六號ヲ以テ改正更ニ全令第十六號ヲ以テ改正)

第四條 道廳府縣郡立ニアラサル學校ノ管理者ニ異動アルトキハ其都度文部大臣ニ開申スヘシ

第五條 道廳府縣立ニアラサル實業學校ニ關シ文部大臣ニ提出スヘキ文書ハ凡テ地
實業教育費國庫補助法施行規則

方長官ヲ經由スヘシ

第一條ノ申請書ヲ進達スル場合ニ於テ地方長官ハ精査ノ上詳細ナル意見ヲ付シ併セテ其地方實業ノ情況ヲ具申スヘシ

第六條 補助金交付ノ手續ハ別ニ定ムル所ニ依ル

附 則

第七條 此規則ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

○實業教育費國庫補助金交付手續並補助ヲ受クル學校ノ豫算決算ニ關スル規定

豫算決算ニ關スル規定 明治三十二年三月三十一日 文部省令第二十一號

實業教育費國庫補助法ニ依レル補助金交付ノ手續並補助ヲ受クル學校ノ豫算決算ニ關スル規定ヲ改正スルコト左ノ如シ

第一條 實業教育費國庫補助金交付手續並補助ヲ受クル學校ノ豫算決算ニ關スル規定

第二條 實業教育費國庫補助金ハ補助ヲ與フル月ヨリ月割ヲ以テ計算ス

各一期分ヲ交付ス但新ニ補助ヲ許可シタル場合ニ於テハ其期ニ屬スル補助金並臨時許可シタル補助金ハ本文ノ期月ニ拘ラス之ヲ交付ス

實業教育費國庫補助法施行規則第二條ノ認可ヲ受ケサルモノアルトキハ之ニ對スル補助金ハ總テ認可濟ノ上ニアラサレハ交付セズ (明治三十五年十月三十一日 文部省令第十四號ニテ改正)

第三條 實業教育費國庫補助法施行規則第二條ノ收支豫算書ハ前年度豫算額及之ニ對スル比較増減ヲ示シ且ツ其細目ニ就キ説明ヲ付スヘシ

第四條 實業教育費國庫補助法施行規則第二條ノ收支決算書ハ全年度豫算額及之ニ對スル比較増減ヲ示シ且其増減ニ就キ説明ヲ付スヘシ (明治三十四年文部省令第十四號ニテ改正)

第五條 基本財産ヲ有スル學校ハ前年度十二月末現在ノ種類數量及價格ヲ記載シ收

實業教育費國庫補助金交付手續並補助ヲ受クル學校ノ豫算決算ニ關スル規定

支豫算書ニ添付スヘシ

附 則

第六條 本令ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

第四編 師範學校

支豫算書ニ添付スヘシ

附 則

第六條 本令ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

第四編 師範學校

◎第四編 師範學校

◎總 規

○師範教育令

明治三十年十月六日
勅令第三百四十六號

第一條 高等師範學校ハ師範學校中學校及高等女學校ノ教員タルヘキ者ヲ養成スル所トス

女子高等師範學校ハ師範學校女子部及高等女學校ノ教員タルヘキ者ヲ養成スル所トス

師範學校ハ小學校ノ教員タルヘキ者ヲ養成スル所トス

前三項ニ記載シタル學校ニ於テハ順良信愛威重ノ徳性ヲ涵養スルコトヲ務ムヘシ

第二條 高等師範學校及女子高等師範學校ハ東京ニ各一校ヲ設置シ師範學校ハ北海道及各府縣ニ各一校若ハ數校ヲ設置ス

第三條 高等師範學校及女子高等師範學校ハ文部大臣ノ管理ニ屬シ師範學校ハ地方長官ノ管理ニ屬ス

第四條 師範學校ノ經費(北海道及沖繩縣ヲ除ク)ハ府縣稅又ハ地方稅ノ負擔トス

第五條 師範學校ノ設備ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第六條 高等師範學校女子高等師範學校及師範學校生徒ノ募集及卒業後ノ服務ニ關

スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム (明治三十年文部省令第二十二號ヲ以テ女子高等師範學校生徒募集規則公布)

第七條 高等師範學校女子高等師範學校及師範學校生徒ノ學資ハ文部大臣ノ定ムル所ニヨリ其ノ學校ヨリ之ヲ支給スヘシ

前項ノ外文部大臣ノ定ムル所ニ依リ私費生ヲ置クコトヲ得 (明治三十年文部省令第二十二號ヲ以テ私費生規則公布)

第八條 高等師範學校女子高等師範學校及師範學校ノ學科及其ノ程度並教科書ハ文部大臣之ヲ定ム (明治三十年文部省令第二十四號ヲ以テ女子高等師範學校規程改正公布)

第九條 師範學校ニ豫備科小學校教員講習科及幼稚園保姆講習科ヲ置クコトヲ得 附 則

第十條 本令ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス 明治十九年勅令第十三號師範學校令ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

第十一條 他ノ法令中尋常師範學校トアルハ本令施行ノ日ヨリ當然師範學校ト改正セラレタルモノト看做ス

○師範學校生徒病類別患者報告方 明治三十四年十二月四日 文部省令第三號

師範學校本科生徒病類別患者表左記様式ニ從ヒ毎年四月三十日限文部大臣ニ報告ス

ヘシ 本令ノ調査ハ明治三十五年四月一日ヨリ施行スヘシ (左記様式等略ス)

北海道廳 府縣

○福岡縣師範學校規則 (明治三十六年三月十八日福岡縣令第一七號)

第一章 通 則

第一條 本校ハ明治三十年勅令第三百四十六號師範教育令ニヨリ本縣小學校教員ヲ養成スル所トス

第二條 本校生徒ノ定員ヲ三百二十名トシ之ヲ入學級ニ編成ス

第三條 本校ニ小學校教員講習科ヲ置ク但講習科ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第二章 學年學期休業

第四條 學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ルモノト十月十六日ニ始マリ翌年十月十五日ニ終ルモノトノ二種トシ各之ヲ二學期ニ分ツ

學期ハ一ハ四月一日ヨリ十月十五日ニ至リ一ハ十月十六日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル

第五條 休業日ヲ定ムルコト左ノ如シ

日 曜 日

祝日 大祭日

夏季休業 七月二十一日ヨリ八月三十一日ニ至ル

冬季休業 十二月二十六日ヨリ翌年一月七日ニ至ル

教育ニ關スル 勅語下賜ノ當日 十月三十日

兩陛下 御眞影下賜ノ當日
 學年 始 三日間
 十二月三日

第三章 學科課程

第六條 本校ノ學科目及其ノ程度ハ明治二十五年文部省令第八號ニ據ル但同令第一條第二項ニ基キ外國語農業商業手工ノ四科目ヲ加設ス (三十七年一月福岡縣令第一號ヲ以テ改正全年四月施行)

第七條 學科課程配當ヲ定ムルコト左表ノ如シ

學科	年	時數	週	學年	
				第一學年	第二學年
國語	四	國文講讀	作文	國文講讀	文學史ノ大要
教育	二	教育史	教育ノ原理	教育ノ原理	教育ノ原理 學校管理法
修身	二	人倫道德ノ要領	人倫道德ノ要領	人倫道德ノ要領	人倫道德ノ要領
漢文	二	經史記傳論	經史記傳論	經史記傳論	經史記傳論
歷史	二	日本歷史	外國歷史	外國歷史	
地理	二	日本地理	外國地理	地授法	
數學	四	總算	代數	代數	代數
物理	二	物理	物理化學	物理化學	化學
化學	二	植物	植物	人身生理	化學
博物	三	植物	植物	人身生理	
習字	二	楷書	楷書	行書草書	
圖畫	二	自在畫	自在畫	自在畫	

學科	年	時數	週	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年
國語	四	國文講讀	作文	國文講讀	文學史ノ大要		
教育	二	教育史	教育ノ原理	教育ノ原理	教育ノ原理 學校管理法		
修身	二	人倫道德ノ要領	人倫道德ノ要領	人倫道德ノ要領	人倫道德ノ要領		
漢文	二	經史記傳論	經史記傳論	經史記傳論	經史記傳論		
歷史	二	日本歷史	外國歷史	外國歷史			
地理	二	日本地理	外國地理	地授法			
數學	四	總算	代數	代數	代數		
物理	二	物理	物理化學	物理化學	化學		
化學	二	植物	植物	人身生理	化學		
博物	三	植物	植物	人身生理			
習字	二	楷書	楷書	行書草書			
圖畫	二	自在畫	自在畫	自在畫			

	音樂	體操	英語	農業	商業	手工
三四	一 單音唱歌	六 普通體操	讀方、譯解、會話、習字	二 土壤水利肥	經濟ノ大意	木竹ノ細工
三四	一 單音唱歌	六 普通體操	讀方、譯解、會話、習字	三 土壤水利肥	商店會社、高金融運送、保險等ニ關スル事項	木竹ノ細工
三四	二 單音唱歌、複音唱歌、樂器用法	六 普通體操	讀方、譯解、會話、習字	三 耕耘栽培、養蠶畜等	前學年ノ續及必要ナル商品商用作文商用簿記	木竹普通、金屬細工
三四	四 單音唱歌、複音唱歌、樂器用法	六 普通體操	讀方、譯解、會話、習字	六 耕耘栽培、養蠶畜等、農家經濟	前學年ノ續及教授法	木竹普通、金屬細工、屬細工、粘土細工、木工細工
三四						

(明治三十七年一月福岡縣令第一號ヲ以テ商業附加)

第四章 在學退學休學

第八條 生徒ハ凡テ本校内ニ寄宿セシム

第九條 生徒ハ自己ノ便宜ニ依リ半途退學スルコトヲ得ス但病氣又ハ學業不進ニ依リ成業ノ見込ナキ者ハ退學ヲ命スルコトアルヘシ

第十條 病氣其他ノ事故ニヨリ引續キ欠席ニケ月ニ及ビ該學期ノ課程ヲ履修スルニ堪ヘスト認ムル者ニハ該學期間休學ヲ命スルコトアルヘシ

第十一條 第二學年以上ノ課程ヲ修了シタル者ニシテ其資質尙進シテ全科ヲ履修スルニ堪ヘスト認ムル者アルトキハ明治二十五年文部省令第十五號師範學校簡易科規程ニ照シ其不足ノ學科ヲ補充シ之ニ簡易科卒業證書ヲ授與スルコトアルヘシ

第十二條 簡易科卒業ノ場合ニ於テハ左式ノ卒業證書ヲ授與ス

卒業證書

校 印

族 籍

氏 名

生年月日

右ハ本校ニ於テ簡易科課程ヲ卒業セリ依

福岡縣師範學校規則

テ之ヲ證ス
年月日

福岡縣師範學校長位勳爵氏名印

割印
番号

第五章 學業査定及卒業

第十三條 生徒ノ學業ハ平常成績及試驗成績ニヨリ之ヲ査定ス

第十四條 平常成績ハ平素教授ノ際生徒ノ學力ヲ考察シテ之ヲ定ム但教員ノ見込ニヨリ臨時ニ問題ヲ與ヘテ其學力ヲ檢スルモ妨ナシ

第十五條 各學期末ニハ日時ヲ定メテ該學期間ニ教授シタル事項ニ付試験ヲ行フ

第十六條 學科ノ種類ニヨリ受持教員ノ見込ヲ以テ學校長ノ認可ヲ得テ前條ノ試験ヲ省クコトヲ得

第十七條 成績ハ評点ヲ以テ之ヲ判シ各學科十點ヲ以テ定点トス

第十八條 試験ニ欠席シタル者ノ評点ハ零トス

第十九條 各學科ニツキ平常成績点ト試驗成績点トヲ加ヘ之ヲ二除シ更ニ之ヲ合計

シテ學科目ノ數ニテ除シタルモノヲ學期成績点トス但第十六條ノ場合ニアリテハ平常成績点ヲ以テ直ニ學期成績点トス

第二十條 各學科ニツキ二學期成績点ヲ平均シテ更ニ之ヲ合計シ學科目ノ數ニテ除シタルモノヲ學年成績点トス但最終學年ニ於テハ前學期ノ成績点ニ實地授業評点ヲ加ヘ二除シテ之ヲ定ム

第二十一條 學年成績各學科六點以上ヲ得タル者ヲ及第トシ之ヲ進級セシム但本條ノ定点ニ滿タサル者アルモ學校長ノ見込ニ依リ特ニ進級セシムルコトアルヘシ

第二十二條 學期成績不良ナル者アルトキハ特ニ該學期ノ課程ヲ再修セシムルコトアルヘシ

第二十三條 各學年成績点ニ左ノ率ヲ乘シ更ニ之ヲ合計シ十ニテ除シ卒業成績ヲ定ム

第一學年 一 第二學年 二
第三學年 三 第四學年 四

第二十四條 最終學年ノ成績第二十一條ノ規定ニ合格シタル者ニハ左式ノ卒業證書ヲ授與ス

卒業證書

校印

族籍

氏

名

生年月日

右ハ本校ニ於テ師範學科ヲ

卒業セリ仍テ之ヲ證ス

年月日

福岡縣師範學校長位勳爵氏名印

割印

番号

第六章 生徒心得

第二十五條 本校生徒ハ將來國民教育ノ重任ニ當リ人ノ師表タルヘキ者ナレハ平素

教育ニ關スル 勅語ノ御旨趣ニ基キ精神ヲ鍛鍊シ德操ヲ磨勵シ特ニ左ノ各項ヲ

服膺スヘシ

- 一 尊王愛國ノ志氣ニ富ムハ教員タル者ニ在テハ特ニ重要トス故ニ生徒ハ平素 忠孝ノ大義ヲ明ニシ國民タル志操ヲ修養セシムコトヲ務ムヘシ

- 二 順良信愛威重ノ諸德ヲ備フルハ教員タル者ニ在テハ特ニ重要トス故ニ生徒 ハ平素長上ヲ尊敬シ後進ヲ誘掖シ規律ヲ守リ禮節ヲ正クセシムコトヲ務ムヘシ

- 三 公義ヲ重シ公德ヲ尊フハ教員タル者ニ在テハ特ニ重要トス故ニ生徒ハ平素 公共ノ利害ニ注意シ共同責善ノ實ヲ舉ゲシムコトヲ務ムヘシ

- 四 身體ノ健康ハ業ヲ成ス基ナリ故ニ生徒ハ平素衛生ニ留意シ運動ヲ勵ミ健康 ヲ増進セシムコトヲ務ムヘシ

- 五 學習ノ要ハ管ニ自己ノ得識ニ止ラス之ヲ教授スル方法ヲ講究スルニアリ故 ニ生徒ハ平素兒童ニ對シテ適切ニ其知識ヲ解説傳達スルノ能ヲ養フヘシ

- 六 言語ノ明瞭正確ナルハ教員タル者ニ在テハ特ニ必要トス故ニ生徒ハ平素其 口述ヲ正クシ以テ言語ヲ練習セシムコトヲ務ムヘシ

- 七 學習ノ法ハ偏ニ教師ノ授業ノミニ依頼スヘキモノニアラス故ニ生徒ハ平素 自ラ進テ學識ヲ博メ技藝ヲ研クコトヲ務ムヘシ

第七章 賞罰

第二十六條 生徒中篤行勤勉特ニ超衆ノ者ハ褒賞スルコトアルヘシ

第二十七條 生徒中校規命令ニ違背シ又ハ生徒タルノ本分ニ背反シタル行為アリト

認ムルモノハ罰科ニ處ス

第二十八條 罰科ヲ分チテ戒飭謹慎停學放校ノ四種トス

第二十九條 學校ノ器物ヲ毀損亡失スルカ若クハ汚瀆シタルモノハ其情狀ニヨリ罰科ニ處スルコトアルヘシ但此場合ニ於テハ現品又ハ相當代價ヲ償還セシム

附 則

第三十條 本則實施ニ關スル細則ハ學校長之ヲ定ム

福岡縣女子師範學校規則 (明治三十六年三月十五日福岡縣令第一三號)

第一章 通 則

第一條 本校ハ明治三十年勅令第三百四十六號師範教育令ニ依リ本縣小學校教員ヲ養成スル所トス

第二條 本校生徒ノ定員ヲ二百四十名トシ之ヲ六學級ニ編成ス

第三條 本校ニ小學校教員講習科ヲ置ク但講習科ニ關スル規則ハ別ニ之ヲ定ム

第二章 學年學期休業

第四條 學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ルモノト十月十六日ニ始リ翌年十月十五日ニ終ルモノトノ二種トシ各之ヲ二學期ニ分ツ

學期ハ一ハ四月一日ヨリ十月十五日ニ至リ一ハ十月十六日ヨリ翌年三月卅一日ニ至ル

第五條 休業日ヲ定ムルコト左ノ如シ

日 曜 日

祝日大祭日

皇后陛下御誕辰 五月廿八日

夏季休業 七月二十一日ヨリ八月三十一日ニ至ル

冬季休業 十二月二十六日ヨリ翌年一月七日ニ至ル

教育ニ關スル 勅語下賜ノ當日 十月三十日

兩陛下 御眞影下賜ノ當日
學年始三日間

第三章 學科課程

第六條 本校ノ學科目及其程度ハ明治二十五年文部省令第八號ニ據ル

第七條 學科課程配當ヲ定ムルコト左表ノ如シ

學科	年	時間	第一學年 全上		第二學年 全上		第三學年 全上	
			前半年	後半年	前半年	後半年	前半年	後半年
修身	二	二	人倫道德ノ要	人倫道德ノ要	二	人倫道德ノ要	二	人倫道德ノ要
教育	二	二	教育ノ原理	教育ノ原理	四	教育ノ原理	二	教育ノ原理
國語	四	三	國文講讀 作文	國文講讀 作文	三	文學史ノ大畧 作文 教授法	二	教育法令 學校管理法
漢文	二	二	經史記傳等ノ 講讀	經史記傳等ノ 講讀	二	經史記傳等ノ 講讀	三〇	實地 授業

學科	年	時間	第一學年 全上		第二學年 全上		第三學年 全上	
			前半年	後半年	前半年	後半年	前半年	後半年
歷史	二	二	日本歷史	日本歷史	二	日本歷史	二	外國歷史要略
地理	二	二	日本地理	外國地理	一	地文ノ要略	二	地文ノ要略
數學	三	三	算術	幾何ノ初步	二	幾何ノ初步	二	幾何ノ初步
理科	二	三	植物動物	物理化學	三	人身生理	三	人身生理
家事	六	六	衣食住ニ關スル事項 裁縫	衣食住ニ關スル事項 裁縫	六	育兒簿記 裁縫 教授法	六	育兒簿記 裁縫 教授法
習字	二	二	楷書行書	假名交リ草書	二	假名交リ草書	二	假名交リ草書
圖畫	二	二	自在畫	自在畫	二	自在畫	二	自在畫
音樂	二	二	單音唱歌	複音唱歌 樂器使用	二	單音唱歌、樂器 複音唱歌、樂器	二	單音唱歌、樂器 複音唱歌、樂器

福岡縣女子師範學校規則

體操	三遊戯普通體操	三遊戯普通體操	三遊戯普通體操	三遊戯普通體操
三四	三四	三四	三四	三四

第四章 在學退學休學

第八條 生徒ハ凡テ本校内ニ寄宿セシム

第九條 生徒ハ自己ノ便宜ニヨリ半途退學スルコトヲ得ス但病氣又ハ學業不進ニヨ

リ成業ノ見込ナキモノハ退學ヲ命スルコトアルヘシ

第十條 病氣其他ノ事故ニヨリ引續キ缺席二ヶ月ニ及ヒ該學期ノ課程ヲ履修スルニ

堪ヘスト認ムル者ニハ該學期間休學ヲ命スルコトアルヘシ

第五章 學業査定及卒業

第十一條 生徒ノ學業成績ハ平素教授ノ際其習熟ノ度ヲ考察シテ之ヲ定ム但教員ノ

見込ニヨリ臨時ニ問題ヲ與ヘテ其學力ヲ檢スルモ妨ナシ

第十二條 成績ハ評点ヲ以テ之ヲ判シ各學科十點ヲ以テ定點トス

第十三條 學期末ニ於テ該學期間ノ各學科成績點ヲ合計シ之ヲ學科目ノ數ニテ除シ

得タルモノヲ該學期ノ成績點トス

第十四條 學年末ニ於テ各學科ニ就キ前後二學期ノ成績點ヲ平均シテ更ニ之ヲ合計

シ學科目ノ數ニテ除シ得タルモノヲ該學年ノ成績點トス但最終學年ニ於テハ前學

期ノ成績點ニ實地授業評点ヲ加ヘ二除シテ之ヲ定ム

第十五條 學年成績各學科ノ六點以上ヲ得タルモノヲ及第トシ之ヲ進級セシム但本

條ノ定點ニ滿タサルモノアルモ學校長ノ見込ニヨリ特ニ進級セシムルコトアルヘ

シ

第十六條 各學年成績點ニ左ノ率ヲ乘シ更ニ之ヲ合計シ六ニテ除シ卒業成績ヲ定ム

第一學年 一 第二學年 二

第三學年 三

第十七條 最終學年ノ成績第十五條ノ規定ニ合格シタル者ニハ左式ノ卒業證書ヲ授

與ス

卒業證書
族籍
氏名
生年月日
右ハ本校ニ於テ師範

福岡縣立女子師範學校規則

學科ヲ卒業セリ仍テ
之ヲ證ス
年月日
學校長位勳氏名印
番號

第六章 生徒心得

第十八條 本校生徒ハ將來國民教育ノ重任ニ當ル人ノ師表タルヘキ者ナレハ平素教育ニ關スル勅語ヲ御旨趣ニ基キ精神ヲ鍛練シ德操ヲ磨勵シ特ニ左ノ各項ヲ服膺スヘシ

- 一 尊王愛國ノ志氣ニ富ムハ教員タル者ニ在テハ特ニ重要トス故ニ生徒ハ平素忠孝ノ大義大明ニシ國民タル志操ヲ修養センコトヲ務ムヘシ
- 二 順良信愛威重ノ諸德ヲ備フルハ教員タル者ニ在テハ特ニ重要トス故ニ生徒ハ平素長上ヲ尊敬シ後進ヲ誘掖シ規律ヲ守リ禮節ヲ正シクセシコトヲ務ムヘシ
- 三 公義ヲ重シ公德ヲ尊フハ教員タル者ニ在テハ特ニ重要トス故ニ生徒ハ平素公

- 四 共ノ利害ニ注意シ共同責善ノ實ヲ學ケンコトヲ務ムヘシ
- 五 身體ノ健康ハ業ヲ成スノ基ナリ故ニ生徒ハ平素衛生ニ留意シ運動ヲ勵ミ健康ヲ増進センコトヲ務ムヘシ
- 六 學習ノ要ハ管ニ自己ノ得識ニ止ラス之ヲ教授スル方法ヲ講究スルニアリ故ニ生徒ハ平素兒童ニ對シ適切ニ其智識ヲ解説傳達スルノ能ヲ養ハンコトヲ務ムヘシ
- 七 言語ノ明瞭正確ナルハ教員タル者ニ在テハ特ニ必要トス故ニ生徒ハ平素其口述ヲ正シクシ以テ言語ヲ練習センコトヲ務ムヘシ
- 八 學習ノ法ハ偏ニ教師ノ授業ノミニ依賴スヘキモノニアラス故ニ生徒ハ平素自ラ進ンテ學識ヲ博メ技藝ヲ研クコトヲ務ムヘシ

第七章 賞 罰

第十九條 生徒中篤行勤勉特ニ超衆ノ者ハ褒賞スルコトアルヘシ

第二十條 生徒中校規命令ニ違背シ又ハ生徒タルノ本分ニ背戾シタル行爲アリト認ムル者ハ罰科ニ處ス

第二十一條 罰科ヲ分チテ戒飭謹慎停學放校ノ四種トス

第二十二條 學校ノ器物ヲ毀損亡失スルカ若クハ汚瀆シタル者ハ其情狀ニヨリ罰科ニ處スルコトアルヘシ但此場合ニ於テハ現品又ハ相當代價ヲ償還セシム

福岡縣立女子師範學校規則

附 則

第三十三條 本則實施ニ關スル細則ハ學校長之ヲ定ム

◎教 科

○師範學校ノ學科及其程度 明治二十五年七月十一日 文部省令第八號

明治十九年(五月)文部省令第九號師範學校ノ學科及其程度及明治二十二年(十月)文部省令第八號師範學校ノ女生徒ニ課スヘキ學科及其程度ヲ改正スルコト左ノ如シ但明治二十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

師範學校ノ學科及其程度

第一條 師範學校ノ男生徒ニ課スヘキ學科目ハ修身、教育、國語、漢文、歴史、地理、數學、物理化學、博物、習字、圖畫、音樂、體操トス

土地ノ情況ニ依リ外國語、農業、商業、手工ノ中一科目若クハ數科目ヲ加フヘシ其數科目ヲ加ヘタル場合ニ於テハ生徒ノ所長ニ依リ其中ニ就キ一科目ヲ課スルモノトス

第二條 師範學校ノ女生徒ニ課スヘキ學科目ハ修身、教育、國語、漢文、歴史、地理、數學、理科、家事、習字、圖畫、音樂、體操トス

第三條 師範學校ノ修業年限ハ男生徒ニ就キテハ四箇年トシ女生徒ニ就キテハ三箇年トス

第四條 土地ノ情況ニ依リ師範學校ニ簡易科豫備科小學校教員講習科幼稚園保母講習科ヲ置クコトヲ得此場合ニハ北海道廳長官府縣知事ニ於テ其事由及方法ヲ具シ

師範學校ノ學科及其程度

文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第五條 學級ハ生徒ノ員數種類等ニ應シテ之ヲ編制シ一學級生徒數ノ最多限ヲ凡四十八トス (明治三十年文部省令第十三號ヲ以テ改正)

第六條 (明治三十年文部省令第二十六號ヲ以テ削除)

第七條 教授日數ハ毎年四十五週教授時數ハ每週三十四時トス

土地ノ情況ニ依リ前項ノ教授日數ヲ三週以內減シ若クハ夏期休業ノ前後各二週以內ハ每週教授時間ヲ十時以內減スルコトヲ得

第八條 第一條第二項ニ依リ學科目ヲ加ヘ又ハ第五條ニ依リ學級ヲ編制シ若クハ前條第二項ニ依リ教授日數ヲ減シタルトキハ北海道廳長官府縣知事ニ於テ其事由ヲ具シ文部大臣ニ開申スヘシ

第九條 師範學校ノ教育ノ要旨ハ左ノ如シ

- 一 師範學校ニ於テハ師範學校令ノ旨趣ニ基キテ生徒ヲ教育スヘシ
- 二 精神ヲ鍛鍊シ德操ヲ磨勵スルハ教員タル者ニ在リテハ殊ニ重要トス故ニ生徒ヲシテ平素忠孝ノ大義ヲ明カニシ國民タル志操ヲ振起セシメンコトヲ要ス
- 三 尊王愛國ノ志氣ニ富ムハ教員タル者ニ在リテハ殊ニ重要トス故ニ生徒ヲシテ規律ヲ守リ秩序ヲ保テ師表タルヘキ威儀ヲ具フルハ教員タルモノニ在リテハ
- 四 殊ニ重要トス故ニ生徒ヲシテ平素長上ノ命令訓誨ニ服從シ起居言動ヲ正シクセシメンコトヲ要ス

五 身體ノ健康ハ業ヲ成ス基ナリ故ニ生徒ヲシテ平素衛生ニ留意シ體操ヲ勉メ健康ヲ増進セシメンコトヲ要ス

六 教授ハ教員タルヘキ者ニ適切ニシテ小學校教則大綱ノ旨趣ニ副ハンコトヲ旨トスヘシ

七 教授ハ常ニ其方法ニ注意シ生徒ヲシテ業ヲ受クル際教授ノ方法ヲ會得セシメンコトヲ務ムヘシ

八 言語ノ明瞭正確ナルハ教員タル者ニ在リテハ殊ニ必要トス故ニ教授ノ際常ニ生徒ヲシテ其口述ヲ正シクシ以テ言語ヲ練習セシメンコトヲ務ムヘシ

九 學習ノ法ハ偏ニ教授ノミニ憑ラシムヘキモノニアラス故ニ生徒ヲシテ常ニ自ラ學識ヲ進メ技藝ヲ研ク習慣ヲ養ハシメンコトヲ務ムヘシ

第十條 師範學校ノ男生徒ニ課スヘキ學科目ノ程度ハ左ノ如シ

- 一 修身
- 第一學年 每週二時
- 教育ニ關スル 勸語ノ旨趣ニ基キテ人倫道德ノ要領ヲ授ク

師範學校ノ學科及其程度

第二學年 每週二時

前學年ニ準シ較ク詳ニ人倫道德ノ要領ヲ授ク

第三學年 每週二時

前學年ニ準ス
修身ヲ教授スル順序方法ヲ授ク

第四學年 每週二時

前學年ニ準シ更ニ帝國憲法ノ要領ヲ授ク

修身ヲ授クルニハ躬行實踐ヲ旨トシ徒ニ理論ニ偏セザランコトヲ要ス

二 教育

第一學年 每週二時

教育史 内外國教育ノ沿革及著名ナル教育家ノ傳記主義方案ノ要略ヲ授ク

第二學年 每週二時

教育ノ原理 心理ノ大要ヲ授ク

第三學年 每週三時

教育ノ原理 教育ノ目的及智育德育體育ノ大要ヲ授ケ及教授ノ原則ヲ授ク

第四學年 每週十七時

教育ノ原理教育法令及學校管理法 每週二時
實地授業 每週十五時

教育ノ原理 前學年ノ續

教育法令及學校管理法 教育ニ關スル現行ノ法令規則ニ基キ學校ノ設置編制設

備管理經濟衛生等ノ方法ヲ授ケ兼テ地方制度ノ大要ヲ授ク

實地授業 附屬小學校ニ於テ兒童教育ノ方法ヲ練習セシム

教育ヲ授クルニハ殊ニ小學校教育ノ旨趣方法ヲ理會セシメ教育者タル精神ヲ養ハ

シコトヲ旨トシ理論ニ偏シ高遠ニ馳スルカ如キコトナカランコトヲ要ス實地授業

ニ就キテハ附屬小學校ニ於テ順次師範生徒ヲシテ兒童ヲ教授セシメ各學科目ノ教

員附屬小學校主事又ハ受持訓導ハ授業ニ當ラサル生徒ヲ率ヰテ之ニ立會ヒ其授業

ヲ監督シテ適否ヲ批評シ又時々自ラ教授シテ之カ模範ヲ示スヘシ (明治三十年文部省

令第二十號ヲ以テ改正)

實地授業ノ每週教授時間ハ之ヲ前半年又ハ後半年ニ纏メ三十時トシテ課スルコト

ヲ得此場合ニ於テハ國語以下ノ教科目ハ其第四學年ノ每週教授時間ヲ他ノ半年ニ

纏メテ教授スヘシ

三 國語

第一學年 每週四時

講讀 平易ニシテ雅馴ナル文章ヲ講讀セシム

文法 音韻ノ性質假名ノ用法言語ノ種類文章ノ諸規則ヲ授ク

師範學校ノ學科及其程度

作文 文題ヲ與ヘ平易ナル文體ニ依リ日用書類記事文等ヲ作ラシム

第二學年 每週二時

講讀 中古以降ノ雅馴ナル文章及歌ヲ講讀セシム

作文 前學年ニ準シ更ニ論說文等ヲ作ラシメ兼テ 易ナル漢文ヲ國文ニ翻譯セシム

第三學年 每週二時

文學史ノ大要 片假名平假名ノ起源ヨリ國文學ノ發達變遷ノ要略ヲ授ケ古今諸體ノ文章及歌ノ中標準トナルヘキモノヲ講讀セシム

作文 前學年ニ準ス

讀書作文ヲ教授スル順序方法ヲ授ケ

國語ヲ授クルニハ講讀ハ發音及句讀ニ注意シ通讀ノ際讀者及聽者ヲシテ文勢文意ヲ會得セシメシヨトヲ務メ文法ハ言語又ハ文章ヲ以テ正確ニ思想ヲ表彰セシメンコトヲ旨トシ作文ハ文法ニ隨ヒ簡明著實ニシテ達意ヲ旨トシ文題ハ博ク各學科目ニ於テ授ケタル事項及日常必須ノ事項ニ就キ務メテ實用ニ適スルモノヲ撰フヘシ

四 漢文

第二學年 每週二時

歴史記傳論說等ノ中平易ニシテ雅馴ナル文章ヲ講讀セシム

第三學年 每週二時

歴史記傳論說等ノ中雅馴ナル文章ヲ講讀セシム

第四學年 每週二時

前學年ノ續

漢文ヲ授クルコハ殊ニ思想及事實ヲ精細ニ記述シタル文章ヲ授ケ音訓ヲ正シクシ句讀ニ注意シテ句意章意ヲ明カニシ兼テ文理結構ヲ講究セシメ又時々簡單ナル國文ヲ漢文ニ翻譯セシムヘシ

五 歴史

第一學年 每週二時

日本歴史 建國ノ體制 皇統ノ無窮

歷代天皇ノ 盛業忠良賢哲ノ事蹟學術技藝ノ隆替武備ノ張弛政治ノ沿革農工商業ノ發達風俗ノ變遷等ニ關スル事項ヲ授ケ

第二學年 每週二時

日本歴史 前學年ノ續

外國歴史 支那歴史ノ大要ヲ授ケ次ニ上古ノ著名ナル諸外國ノ歴史ニ移リ其重要ナル事項ヲ授ケ

第三學年 每週二時

外國歷史 諸外國ノ中古近世ノ歴史中重要ナル事項ヲ授ク

歴史ヲ教授スル順序方法ヲ授ク

歴史ヲ授クルニハ務メテ事實ノ關係ニ注意シ文化ノ由來スル所ヲ辨ヘシメ殊ニ我國體ヲ明カニシ尊王愛國ノ志氣ヲ振起セシメ以テ國民タル志操ヲ養成セシムコトヲ務ムヘシ

六 地理

第一學年 每週三時

總論及日本地理 地球及表面ノ形狀氣候人種人民生活ノ狀態等ノ要略ヲ授ケ次ニ日本地理ニ移リ畿内八道ノ地理ヲ授ケ兼テ地理ヲ描カシム

第二學年 每週二時

外國地理 諸外國ノ地理ヲ授ケ兼テ地圖ヲ描カシム

第三學年 每週一時

地文 地球ト諸天體トノ關係ヨリ始メ地球ノ構造陸水氣象生物ノ分布等ノ要略ヲ授ク

地理ヲ教授スル順序方法ヲ授ク

地理ヲ授クルニハ人生ニ適切ナル事項ヲ知ラシムルヲ主トシ外國地理ヲ授クルニ

ハ本邦ト重要ノ關係アル諸外國ノ地理ヲ詳ニシテ其他ヲ略ニシ地文ハ成ルヘク本邦ノ事實ニ依リテ之ヲ授クヘシ

七 數學

第一學年 每週四時

算術 筆算ハ整數分數小數ノ命數記數及加減乘除並比例百分算ヲ授ケ珠算ハ加減乘除ヲ授ケテ之ヲ練習セシム

幾何 定義公理直線ヲ授ク

第二學年 每週四時

算術 筆算ハ比例百分算開平開立ヲ授ケ珠算ハ前學年ニ準ス簿記 諸帳簿ノ用法豫算表決算表ノ製式等ヲ授ク

幾何 圓面積比例ヲ授ク

第三學年 每週三時

代數 記法符號加減乘除分數一次方程式ヲ授ク
幾何 立體幾何ノ初步ヲ授ク

算術及幾何ヲ教授スル順序方法ヲ授ク

第四學年 每週二時

代數 二次方程式比例級數對數複利ヲ授ク

師範學校ノ學科及其程度

算術及幾何ヲ教授スル順序方法ヲ授ク

數學ヲ授クルニハ算術ハ精密ニ之ヲ授ケテ運算ノ理由ヲ詳ニシ兼テ速算ニ習熟
セシメ代數ハ成ルヘク高遠ニ馳セス主トシテ其數理上ノ問題ノ解法ヲ簡明ニスル
ニ益アルコトヲ知ラシメ幾何ハ論理ニ詳ニシ兼テ測量求積法等ノ實用上ニ應用
セシムヘシ

八 物理化學

第一學年 每週二時

物理 力學音熱ヲ授ク

第二學年 每週二時

物理 熱ノ續及光ヲ授ク

化學 無機化學中重要ナル諸元素及其化合物ヲ授ク

第三學年 每週三時

物理 電氣磁氣ヲ授ク

化學 前學年ノ續

理科ヲ教授スル順序方法ヲ授ク

第四學年 每週二時

化學 有機化學ノ初步及實用上重要ナル有機物ヲ授ク

理科ヲ教授スル順序方法ヲ授ク

物理化學ヲ授クルニハ實驗ニ基キテ正確ナル智識ヲ得シメ近易ナル現象ヲ理會ス
ルノ力ヲ養ヒ日常ノ生活及生業上ニ資スルニ適セシメノコトニ注意スヘシ

九 博物

第一學年 每週三時

植物 形態構造生理分類效用ヲ授ク

動物 形態構造生理習性特質分類效用ヲ授ク

第二學年 每週二時

植物 前學年ノ續

動物 前學年ノ續

第三學年 每週二時

人身生理 身體ノ構造生活ノ機能及衛生上重要ナル事項ヲ授ク

礦物 重要ナル礦物ノ形像性質現出法效用鑑識法ノ要略ヲ授ク

理科ヲ教授スル順序方法ヲ授ク

博物ヲ授クルニハ實物標本等ニ就キ正確ナル知識ヲ得シメ又動物植物ノ相互及人
生ニ對スル關係ヲ審ニシ日常ノ生活及生業上ニ資スルニ適セシメノコトニ注意ス
ヘシ

標本ハ成ルヘク本邦産ノモノヲ主トスヘシ
十 習字

第一學年 每週二時
楷書ヲ授ク

第二學年 每週二時
楷書及行書ヲ授ク

第三學年 每週一時
行書草書及假名ヲ授ク

習字ヲ教授スル順序方法ヲ授ク

習字ヲ授クルニハ先ツ姿勢執筆ノ法ヲ教ヘ次ニ筆ノ運用字ノ結構ヲ知ラシメ字形
端正ニシテ運筆滯滞セサランコトヲ旨トシ兼テ細字ノ速寫及黑板上ニ書スルコ
トニ習熟セシムヘシ

十一 圖畫

第一學年 每週二時

實物模型手本ニ就キテ自在畫ヲ授ケ兼テ用器畫ノ大要ヲ授ク

第二學年 每週二時

前學年ニ準ス

第三學年 每週二時

實物模型手本ニ就キテ自在畫ヲ授ク

圖畫ヲ教授スル順序方法ヲ授ク

第四學年 每週一時

前學年ニ準ス

圖畫ヲ授クルニハ位置形狀濃淡等其宜キヲ得シムルヲ主トシ時々自己ノ意匠ヲ用
ヒテ圖畫セシメ又便宜彩色ノ法ヲ授クヘシ

十二 音樂

第一學年 每週一時

單音唱歌ヲ授ク

第二學年 每週一時

前學年ニ準ス

第三學年 每週二時

單音唱歌複音唱歌及樂器ノ用法ヲ授ク

唱歌ヲ教授スル順序方法ヲ授ク

第四學年 每週二時

前學年ニ準ス

師範學校ノ學科及其程度

音樂ヲ授クルニハ歌詞樂譜ノ高雅純正ニシテ教育上裨益アルモノニ就キテ練習セシメ兼テ音樂上ノ名稱記號等ノ要略及歌詞ノ意義ヲ知ラシムヘシ

十二 體操

第一學年 每週六時

普通體操 準備法矯正術徒手啞鈴等ノ諸體操ヲ授ク

兵式體操 各個教練柔軟體操小隊教練及器械體操ヲ授ク

第二學年 每週六時

普通體操 前學年ニ準シ更ニ球竿棍棒等ノ諸體操ヲ授ク

兵式體操 前學年ニ準シ更ニ中隊教練銃劍術野外演習及兵學大意ヲ授ク

第三學年 每週六時

普通體操 前學年ニ準ス

兵式體操 前學年ニ準ス

體操ヲ教授スル順序方法ヲ授ク

第四學年 每週三時

普通體操 前學年ニ準ス

兵式體操 前學年ニ準ス

體操ヲ教授スル順序方法ヲ授ク

體操ヲ授クルニハ規律嚴正姿勢體操濟意氣充實運動活潑ナラシメンコトヲ務メ土地ノ情況ニ依リ水泳ヲ練習セシムヘシ

十四 外國語

第一學年 每週二時

讀方譯解文法會話及習字ヲ授ク

第二學年 每週三時

前學年ノ續

第三學年 每週三時

讀方譯解修辭及作文ヲ授ク

第四學年 每週三時

前學年ノ續

外國語ヲ教授スル順序方法ヲ授ク

外國語ヲ授クルニハ常ニ發音及讀方ニ注意シ正シキ國語ヲ用ヒテ之ヲ譯解セシメ時々翻譯ヲナサシムヘシ

十五 農業

第一學年 每週二時

土壤水利肥料農具耕耘栽培等ヲ授ク

師範學校ノ學科及其程度

第二學年 每週三時

前學年ノ續

第三學年 每週三時

耕耘栽培澆灌養畜等ヲ授ク

第四學年 每週三時

前學年ノ續及農家經濟ノ大要ヲ授ク

農業ヲ教授スル順序方法ヲ授ク

農業ヲ授クルニハ其地方ニ適切ナラシムコトヲ主トシ農業練習場等ニ於テ之ヲ實習
セシメ農業ノ要旨ヲ覺リ實業ノ趣味ヲ養ハシムコトヲ務ムヘシ

土地ノ情況ニ依リ農業ノ程度ヲ斟酌シテ山林水産ニ關スル事項ヲ授クヘシ

十六 商業

第一學年 每週二時

經濟ノ大要ヲ授ク

第二學年 每週三時

商業ニ關スル習慣法令等ニ基キ商店會社賣買金融運送保險等ニ關スル事項ヲ授ク

第三學年 每週三時

前學年ノ續及重要ナル商品商用作文商用簿記ヲ授ク

第四學年 每週三時

前學年ノ續

商業ヲ教授スル順序方法ヲ授ク

商業ヲ授クルニハ常ニ商況相場等ニ注意シテ實際ノ業務ニ適當セシムコトヲ務
メ又便宜營業取引ノ方法ヲ實習セシムヘシ

十七 手工

第一學年 每週二時

木竹ノ細工ヲ授ク

第二學年 每週三時

前學年ニ準ス

第三學年 每週三時

木竹及普通金屬ノ細工ヲ授ク

第四學年 每週三時

前學年ニ準シ更ニ紙細工粘土細工ノ大要ヲ授ク

手工ヲ教授スル順序方法ヲ授ク

手工ヲ授クルニハ精緻ヲ主トシ手工ノ要旨ヲ覺リ作業ノ趣味ヲ養ハシムコトヲ務メ

師範學校ノ學科及其程度

模本ハ其地方ニ適切ナルモノヲ撰ヒ兼テ材料ノ品質用具ノ保存方等ヲ知ラシム

第十一條 師範學校ノ女生徒ニ課スヘキ學科目ノ程度ハ左ノ如シ但教授上注意スヘキ事項ニ關シテハ前條ノ規程ニ準ス殊ニ教授ハ能ク女子ニ適應セシムルヲ旨トシ教授ノ事項ノ撰擇ニ注意セシコトヲ要ス

一 修身

第一學年 每週二時

教育ニ關スル 勅語ノ旨趣ニ基キ人倫道德ノ要領ヲ授ケ兼テ作法ヲ授ク

第二學年 每週二時

前學年ニ準ス

第三學年 每週二時

前學年ニ準シ較テ詳ニ人倫道德ノ要領ヲ授ク

修身ヲ教授スル順序方法ヲ授ク

修身ヲ授クルニハ殊ニ本邦女子ノ職分習慣等ニ注意シ貞淑ノ美德ヲ涵養セシムコトヲ要ス

二 教育

第一學年 每週二時

教育史 内外國教育ノ沿革及著名ナル教育家ノ傳記主義方案ノ要略ヲ授ク

第二學年 每週二時

教育ノ原理 教育ノ目的及智育德育體育ヲ授ク

前半年 教育ノ原理 每週四時

後半年 教育法令及學校管理法 每週二時

第三學年 實地授業 每週三十時

教育ノ原理 前學年ノ續及教授ノ原則保育ノ方法ヲ授ク

教育法令及學校管理法 教育ニ關スル現行ノ法令規則ニ基キ學校ノ設置編制設備管理經濟衛生等ノ方法ヲ授ク

實地授業 附屬小學校ニ於テ兒童教育ノ方法ヲ練習セシム

又便宜幼兒保育ノ方法ヲ練習セシム

三 國語

第一學年 每週四時

講讀 平易ニシテ雅馴ナル文章ヲ講讀セシム

文法 音韻ノ性質假名ノ用法言語ノ種類文章ノ諸規則ヲ授ク

作文 文題ヲ與ヘ平易ナル文體ニ依リ日用書類記事文等ヲ作ラシム

第二學年 每週三時

師範學校ノ學科及其程度

講讀 中古以降ノ雅馴ナル文章及歌ヲ講讀セシム
作文 前學年ニ準ス

第三學年 每週三時 (此時間ハ前半年ノ教授時間トス以下第
三學年ノ每週教授時間ハ皆之ニ同シ)

文學史ノ大要 片假名平假名ノ起原ヨリ 國文學ノ發達變遷ノ要略ヲ授ケ古今諸
體ノ文章及歌ノ中標準トナルヘキ者ヲ講讀セシム

作文 前學年ニ準ス

讀書作文ヲ教授スル順序方法ヲ授ケ

四 漢文

第一學年 每週二時

經史記傳等ノ中平易ニシテ雅馴ナル文章ヲ講讀セシム

第二學年 每週二時

前學年ノ續

第三學年 每週二時

前學年ノ續

五 歷史

第一學年 每週二時

本邦建國ノ體制 皇統ノ無窮

歷代天皇ノ 盛業忠孝貞淑ノ事蹟學術技藝ノ隆替風俗ノ變遷等ニ關スル事項ヲ
授ケ

第二學年 每週二時

前學年ノ續

第三學年 每週二時

外國歷史ノ大要ヲ授ケ

歷史ヲ教授スル順序方法ヲ授ケ

六 地理

第一學年 每週二時

地球及其表面ノ形狀氣候人種人民生活ノ狀態ノ要略ヲ授ケ次ニ日本地理ニ移リ
畿内八道ノ地理ヲ授ケ兼テ地圖ヲ描カシム

第二學年 每週二時

外國地理ノ大要ヲ授ケ兼テ地圖ヲ描カシム

第三學年 每週一時

地文ノ大要ヲ授ケ

地理ヲ教授スル順序方法ヲ授ケ

七 數學

師範學校ノ學科及其程度

第一學年 每週三時

算術 筆算ハ整數分數小數ノ命數記數及加減乘除並比例百分算ヲ授ケ珠算ハ加減乘除ヲ授ケテ之ヲ練習セシム

第二學年 每週三時

算術 筆算ハ比例百分算開平開立ヲ授ケ珠算ハ前學年ニ準ス
幾何ノ初步 線角而體ノ種類性質關係等ヲ授ク

第三學年 每週二時

幾何ノ初步 前學年ノ續
算術及幾何ヲ教授スル順序方法ヲ授ク

八 理科

第一學年 每週二時

博物 植物及動物ノ重要ナル種類ニ就キ形態構造生理効用等ノ要略ヲ授ク

第二學年 每週三時

物理化學 物理ハ力學音熱光電氣磁氣ノ要略ヲ授ケ化學ハ無機化學中重要ナル諸元素及其化合物ヲ授ケ兼テ化學ヲ教授スル際重要ナル礦物ノ形像性質等ヲ附説スヘシ

第三學年 每週三時

人身生理 身體ノ構造生活ノ機能及衛生上重要ナル事項ヲ授ク
理科ヲ教授スル順序方法ヲ授ク

九 家事

第一學年 每週六時

衣食住ニ關スル事項及裁縫ヲ授ク

第二學年 每週六時

前學年ニ準ス

第三學年 每週六時

育兒ニ關スル事項家計簿記裁縫ヲ授ク
裁縫ヲ教授スル順序方法ヲ授ク

家事ヲ授クルニハ一家ノ整理經濟等ニ關シ重要ナル事項ヲ授ケ成ルヘク之ヲ實習セシメ務メテ實用ニ適セシメンコトヲ注意スヘシ

十 習字

第一學年 每週二時

楷書及行書ヲ授ク

第二學年 每週二時

行書及假名交リ草書ヲ授ク

師範學校ノ學科及其程度

第三學年 每週二時

假名交リ草書ヲ授ク

習字ヲ教授スル順序方法ヲ授ク

十一 圖畫

第一學年 每週二時

實物模型手本ニ就キテ自在畫ヲ授ク

第二學年 每週二時

前學年ニ準シ更ニ用器畫ノ大要ヲ授ク

第三學年 每週二時

實物模型手本ニ就キテ自在畫ヲ授ク

圖畫ヲ教授スル順序方法ヲ授ク

十二 音樂

第一學年 每週二時

單音唱歌ヲ授ク

第二學年 每週二時

單音唱歌複音唱歌及樂器ノ用法ヲ授ク

第三學年 每週二時

前學年ニ準ス

唱歌ヲ教授スル順序方法ヲ授ク

十三 體操

第一學年 每週三時

普通體操及遊戲ヲ授ク

第二學年 每週三時

前學年ニ準ス

第三學年 每週三時

前學年ニ準ス

體操ヲ教授スル順序方法ヲ授ク

第十二條 第十條及第十一條ノ學科目ノ程度ハ土地ノ情況ニ依リ北海道廳長官府縣知事ニ於テ文部大臣ノ許可ヲ受ケ之ヲ斟酌スルコトヲ得

○師範學校簡易科規程

明治二十五年七月十一日
文部省令第十五號

師範學校簡易科規定ヲ定ムルコト左ノ如シ

師範學校簡易科規程

第一條 師範學校簡易科ハ尋常小學校教員ノ急需ニ應スルヲ以テ目的トス但其生徒ハ男子ニ限ル

第二條 簡易科ノ學科目ハ修身、教育、國語、漢文、歷史、地理、數學、理科、習字、圖畫、音樂、體操トス

第三條 簡易科ノ修業年限ハ二年四箇月トス

第四條 學級ノ編制教授日數教授時間教育ノ要旨學科目ノ教授上注意スヘキ事項及學科目ノ程度ノ斟酌ニ關シテハ明治二十五年(七月)文部省令第八號師範學校ノ學科及其程度ニ關スル規程ヲ適用ス (明治三十年文部省令第二十六號ヲ以テ改正)

第五條 簡易科生徒ニ課スヘキ學科目ノ程度ハ左ノ如シ

一 修身

第一學年 每週二時

教育ニ關スル 勅語ノ旨趣ニ基キテ人倫道德ノ要領ヲ授ク

第二學年 每週二時

前學年ニ準シ較テ詳ニ人倫道德ノ要領ヲ授ク

師範學校簡易科規程

修身ヲ教授スル順序方法ヲ授ク

第三學年 每週二時 (此時間ハ四箇月間ノ教授時間トス以下第三學年ノ每週教授時間ハ皆之ニ同シ)

前學年ニ進ス

二 教育

第一學年 每週三時

教育史 内外國教育ノ沿革及著名ナル教育家ノ傳記主義方案ノ要略ヲ授ク

教育ノ原理 教育ノ目的及智育德育體育ヲ授ク

第二學年 每週四時

教育ノ原理 前學年ノ續及教授ノ原則ヲ授ク

第三學年 每週二十六時 實地授業 每週四時

教育法令及學校管理法 教育ニ關スル現行ノ法令規則ニ基キ學校ノ設置編制設

備管理經濟衛生等ノ方法ヲ授ケ兼テテ地方制度ノ大要ヲ授ク

實地授業 附屬小學校ニ於テ兒童教育ノ方法ヲ練習セシム

三 國語

三 國語

第一學年 每週四時

講讀 平易ニシテ雅馴ナル文章ヲ講讀セシム

文法 音韻ノ性質假名ノ用法言語ノ種類文章ノ諸規則ヲ授ク

作文 文題ヲ與ヘ平易ナル文體ニ依リ日用書類記事文等ヲ作ラシム

第二學年 每週三時

講讀 中古以降ノ雅馴ナル文章及歌ヲ講讀セシム

作文 前學年ニ準ス

讀書 作文ヲ教授スル順序方法ヲ授ク

四 漢文

第一學年 每週二時

經史記傳等ノ中平易ニシテ雅馴ナル文章ヲ講讀セシム

第二學年 每週二時

經史記傳論說等ノ中平易ニシテ雅馴ナル文章ヲ講讀セシム

五 歴史

第一學年 每週二時

本邦建國ノ體制 皇統ノ無窮

歷代天皇ノ 盛業忠良賢哲ノ事蹟學術技藝ノ隆替武備ノ張弛政治ノ沿革農工商

業ノ發達風俗ノ變遷等ニ關スル事項ヲ授ク

第二學年 每週二時

師範學校附屬科規程

前學年ノ續及外國歷史ノ大要ヲ授ク

歴史ヲ教授スル順序方法ヲ授ク

六 地理

第一學年 每週三時

地球及其表面ノ形狀氣候人種人民生活ノ狀態等ノ要略ヲ授ケ次ニ日本地理ニ移
リ畿内八道ノ地理ヲ授ケ兼テ地圖ヲ描カシム

第二學年 每週二時

外國地理ノ大要ヲ授ケ兼テ地圖ヲ描カシム

地理ヲ教授スル順序方法ヲ授ク

七 數學

第一學年 每週三時

算術 筆算ハ整數分數小數ノ命數記數及加減乘除並比例百分算ヲ授ケ珠算ハ乘
除ヲ授ケテ之ヲ練習セシム

第二學年 每週三時

算術 筆算ハ比例百分算開平開立ヲ授ケ珠算ハ前學年ニ準ス
幾何ノ初步 線角面體ノ種類性質關係等ヲ授ク
算術ヲ教授スル順序方法ヲ授ク

八 理科

第一學年 每週三時

植物 植物及動物ノ重要ナル種類ニ就キ形態構造生理效用等ノ要略ヲ授ク

第二學年 每週四時

物理化學 物理ハ力學音熱光電氣磁氣ノ要略ヲ授ケ化學ハ無機化學中重要ナル
諸元素及其化合物ヲ授ケ兼テ化學ヲ教授スル際重要ナル礦物ノ形像性質等ヲ
附說スヘシ

人身生理 身體ノ構造生活ノ機能及衛生上重要ナル事項ヲ授ク

九 習字

第一學年 每週三時

楷書及行書ヲ授ク

第二學年 每週二時

行書草書及假名ヲ授ク

習字ヲ教授スル順序方法ヲ授ク

十 圖畫

第一學年 每週二時

實物模型手本ニ就キテ自在畫ヲ授ク

第二學年 每週二時

前學年ニ準シ兼テ用器書ノ大要ヲ授ク

圖書ヲ教授スル順序方法ヲ授ク

十一 音樂

第一學年 每週二時

單音唱歌ヲ授ク

第二學年 每週二時

前學年ニ準シ兼テ樂器ノ用法ヲ授ク

唱歌ヲ教授スル順序方法ヲ授ク

十二 體操

第一學年 每週六時

普通體操 準備法矯正術徒手壓鈴等ノ諸體操ヲ授ク

兵式體操 各個教練柔軟體操小隊教練及器械體操ヲ授ク

第二學年 每週六時

普通體操 前學年ニ準シ更ニ球竿棍棒等ノ諸體操ヲ授ク

兵式體操 前學年ニ準シ更ニ中隊教練銃劍術野外演習及兵學大意ヲ授ク

體操ヲ教授スル順序方法ヲ授ク

第三學年 每週六時

普通體操 前學年ニ準ス

兵式體操 前學年ニ準ス

體操ヲ教授スル順序方法ヲ授ク

第六條 簡易科ハ全校生徒ノ數百四十人以上ノ學校ニアラサレハ之ヲ置クニトテ得

ス但女生徒ヲ置カサル學校ニ於テハ此限ニ在ラス

第七條 簡易科生徒ノ募集ニ關シテハ明治二十五年(七月)文部省令第十號師範學校

生徒募集規則ノ規程ヲ適用ス但其第三條ノ規程ハ此限ニ在ラス

第八條 簡易科卒業生ノ服務ニ關シテハ明治二十五年(七月)文部省令第十一號師範

學校卒業生服務規則ノ規程ヲ適用ス但其第一條ノ服務年限ハ六箇年トシ其第二條

ノ年限ハ三箇年トス

第九條 簡易科ノ爲ニ要スル教員ノ人員ニ關シテハ明治二十五年(七月)文部省令第

十四號師範學校教諭助教諭會監訓導及書記ノ人員ニ關スル規程ヲ適用ス

師範學校訓育教授管理等ノ諸規程ニ關シ開申方
（明治二十五年七月十一日文部省訓令第六號）
北海道廳 府縣
明治二十六年四月一日以後道廳府縣ニ於テ師範學校ノ訓育教授管理等ニ關スル諸規
程ヲ制定若クハ改廢スルトキハ其都度本大臣ニ開申スヘク又同日以前ニ制定セル規
程ニシテ同日以後ニ施行スヘキモノハ取纏メ開申スヘシ

○師範學校訓育教授管理等ノ諸規程ニ關シ開申方

（明治二十五年七月十一日文部省訓令第六號）

北海道廳 府縣

明治二十六年四月一日以後道廳府縣ニ於テ師範學校ノ訓育教授管理等ニ關スル諸規
程ヲ制定若クハ改廢スルトキハ其都度本大臣ニ開申スヘク又同日以前ニ制定セル規
程ニシテ同日以後ニ施行スヘキモノハ取纏メ開申スヘシ

○小學校男子教員講習科規程

(明治三十五年十二月二十七日福岡縣告示第四一〇號)

明治三十三年本縣告示第三六七號小學校教員講習科規程左ノ通改定シ明治三十六年四月一日ヨリ施行ス

小學校男子教員講習科規程

- 第一條 小學校教員講習科ハ小學校教員ノ急需ニ應スルヲ以テ目的トス
 - 第二條 講習科ハ之ヲ甲乙二種ニ分チ甲種ノ生徒ハ小學校本科正教員乙種ノ生徒ハ尋常小學校本科正教員ヲラント欲スルモノヲ以テ之ニ充ツ
 - 第三條 講習科生徒ノ定員ハ八十名トシ之ヲ二學級ニ編制ス
 - 第四條 講習科ノ修業年限ハ一々年トス
 - 第五條 學年學期及休業日ハ本校規則第五條第六條ニ據ル
 - 第六條 講習科生徒ノ募集ハ毎年二回(四月十月)之ヲ行ヒ種別ハ其都度之ヲ定ム
 - 第七條 乙種講習科生徒ハ本縣在籍ノ男子ニシテ左ノ資格ヲ有スル者ヨリ募集シ其品行身體、學力等ヲ檢定シテ之ヲ選フモノトス
 - 一、品行方正身體健全ニシテ小學校教員ニ適當ナリト認ムルモノ
 - 二、年齡滿十七年以上四十五年以下ニシテ在學中徵兵ニ關係ナキモノ
- 第八條 甲種講習科生徒ハ官公立中學校及文部大臣ニ於テ徵兵令第十三條ニ依リ中

學校ノ學科程度以上ト認メタル私立中學校ノ卒業生ニシテ第七條ノ資格ヲ具フルモノヨリ募集ス

第九條 講習科生徒ハ左ノ二種ヨリ募集ス

第一種 郡市長ノ薦舉ニ係ルモノ

第二種 郡市長ノ薦舉ニ依ラザルモノ

第十條 甲種講習科入學志願者ハ入學試験ヲ行ハス乙種講習科入學志願者ハ本縣尋常小學校准教員檢定ノ學科目及其程度ニヨリ學力ヲ試験シ尙ホ体格檢査及口答試問ヲ行フ但本縣尋常小學校准教員以上ノ免許狀ヲ有スル者及第八條ニ該當スル者ハ入學試験ヲ行ハス第一項及第二項但書ニ該當スト雖モ第二種應募者ニシテ定員ニ超過シタルトキハ選抜試験ヲ行フ

第十一條 入學試験ノ方法ハ本科募集細則第三條乃至第六條ヲ適用ス

第十二條 入學ヲ許可スルニハ初メ試験生トシテ四ヶ月以内仮ニ入學セシメ其資性品行ヲ審査シ適當ト認ムル者ニ限リ入學ヲ許可ス

第十三條 講習科生徒ニ課スヘキ學科目左ノ如シ其程度ハ甲種講習科ニアリテハ師範學校本科、乙種講習科ニアリテハ師範學校簡易科ノ程度ニ準ス但乙種講習科學科目ニ於テ數學中幾何ノ初歩歴史中外國歴史ヲ省ク

甲種講習科學科目及每週教授時數

一 修身	每週	二時
一 教育	每週	三時
心理	每週	三時
論理	每週	三時
原理	每週	三時
管理	每週	三時
教授法	每週	三時
教育史	每週	二時
但小學校各教科用書ノ調査	每週	三時
一 國語	每週	三時
一 數學	每週	二時
一 音樂	每週	五時
一 體操	每週	五時
一 理科實驗	每週	三時
乙種講習科學科目及每週教授時數		
一 修身	每週	一時
一 教育	每週	六時
一 國語	每週	四時
一 漢文	每週	二時
一 歴史	每週	三時
一 地理	每週	二時

小學校男子教員講習科規程

一 數學	全	五時
一 理科	全	三時
一 習字	全	一時
一 圖書	全	二時
一 音樂	全	一時
一 体操	全	四時

第十四條 各學年後半期中二ヶ月以上小學校生徒教育ノ方法ヲ實習セシム

第十五條 學年ノ終ニ於テ學年成績ヲ調査シ合格者ニハ修了證書ヲ授與ス

但成績調査法ハ本校規則第十二條乃至第二十一條ヲ準用ス

第十六條 修了證書ヲ得タルモノハ滿三ヶ年間本縣内(郡市長ノ薦舉ニ係ルモノハ

其郡市内)ニ於テ知事任命ノ小學校ニ奉職スル義務アル者トス

第十七條 講習科生徒ハ總テ學校ヨリ指定シタル場所ニ寄宿セシム

第十八條 講習科生徒ハ一人ニ付食費其他ノ手當トシテ一ヶ月金六圓ヲ給ス但退舍

中ノ生徒ニハ之ヲ給セズ

第十九條 講習科生徒ハ定期休業ノ外飯郷スルコトヲ得ス但父母ノ病氣等ニ依リ學

校長ノ特許ヲ得タルモノハ此限リニアラス

第二十條 講習科生徒ハ自己ノ便宜ニ依リ退學スルコトヲ得ス

第二十一條 病氣又ハ學業不進等ニ依リ成業ノ見込ナキモノハ退學ヲ命スルコトア

ルヘシ

第二十二條 本校規則第二十五條乃至第二十九條ハ講習科生徒ニ適用ス

第二十三條 講習科修了者ニシテ謂レナク第十六條ノ義務ヲ盡サス又ハ免許狀褫奪

ノ處分ヲ受ケタルモノハ在學中給與シタル費金ノ全部若クハ幾部ヲ償還セシム

第二十四條 修了證書ノ書式ハ左ノ如シ

修了證書
校 印
族 籍
氏 名
生 年 月
右ハ本校ニ於テ小學校教員(甲種)講習
科ヲ修了セリ依テ之ヲ證ス
年 月 日
福岡縣師範學校長位勳爵氏名印
割印
番 号

第二十五條 入學志願者ノ願書(第一種ハ一號書式第二種ハ三號書式)ニ左ノ書類ヲ

添へ所在地ノ郡市役所ヲ經テ學校長へ差出スヘシ

一 郡市長薦學書(二號書式)第一種ニ限ル

一 履歷書(四號書式)

一 出身中學校長ノ卒業證明書(但甲種講習科志願者ニ限ル)

一 身体検査書(五號書式)

一 戶籍謄本

(第一號書式) 用紙半紙野紙

入 學 願

某(志願者ノ名)儀小學校教員志願ニ付御校小學校教員(甲種乙種)講習科ニ入學ノ許可ヲ得度何郡(市)長薦學書履歷書(甲種ニアリテハ出身中學校長ノ卒業證明書ヲ添フ) 身体検査書及戶籍謄本相添此段相願候也

現住所族籍

戶主又ハ誰子弟

氏 名 印

生 年 月

福岡縣師範學校長何某殿

(第二號書式)

薦 學 書

族 籍

氏 名

右ノ者豫テ當郡(市)内小學校教員志願ニ付今般小學校教員(甲種乙種)講習科生徒ノ募集ニ應シ度旨申出候尤モ同人儀ハ其資性品行等小學校教員ニ適當ノ者ト認メ候ニ付薦學候也

年 月 日 何郡(市)長 氏 名 印

(第三號書式) 用紙半紙野紙

入 學 願

某(志願者ノ名)儀小學校教員志願ニ付御校小學校教員(甲種乙種)講習科ニ入學ノ許可ヲ得度別紙履歷書(甲種ニアリテハ出身中學校長ノ卒業證明書ヲ添フ) 身体検査書及戶籍謄本相添此段相願候也

現住所族籍

戶主又ハ誰子弟

氏 名 印

生 年 月

小學校男子教員講習科規程

八二七

福岡縣師範學校長何某殿

前書志願者ハ小學校教員タルニ於テ差支ノ廉無之依テ証明候也

年 月 日

市町村長

氏

生 年 月 名 印

(第四號書式)

履 歴 書

牛所 何府縣何國何郡(市)何町(村)

氏

名

生 年 月

一何年何月ヨリ何年何月マテ何所何學校又何誰ニ就キ何學科修業

一何年何月何所何學校ニ於テ何科卒業證書ヲ受領ス

一卒業證書ノ寫

一免許狀ノ寫

一何年何月ヨリ何年何月マテ何職ニ從事ス

一何年何月ヨリ何年何月マテ何學校何教員奉職

一何年何月何所ニ於テ何廉ニ付何賞ヲ受ケ或ハ何罰ヲ受ケ

一何々

右之通相違無之候也

年 月 日

氏

名

印

(第五號書式)

身 體 檢 査 書

族 籍

氏

名

生 年 月

一身長 メートル法ヲ用フルヲ可トス

一體重 キログラム若クハ貫ヲ用フルヲ可トス

一肺量 ハンチンソン氏肺量器ヲ用フルヲ可トス

一視力 スチルソン氏視力表ヲ用フルヲ可トス

一聽力 強弱甲乙丙三等ニ區別ス

一體質 健否甲乙丙三等ニ區別ス

一體格 長否甲乙丙三等ニ區別ス

一腋臭其他諸慢性病ノ有無(一既往何病云々現在全上)

(右ノ外現存セル疾患及變形ハ總テ記載スルヲ要ス)

小學校男子教員講習科規程

右検査候處相違無之候也

年 月 日 學校醫^{學校醫アラサル地方}ハ其資格ヲ有スル者 氏 名 印

第廿六條 仮入學ノ許可ヲ得タル者ハ左ノ書式ニ依リ保證人連署ヲ以テ誓書ヲ差出

スヘシ

誓書

貳錢收 本人印
入印紙 保證人印

某儀今般御校小學校教員(甲種乙種)講習科ニ入學御許可相成候ニ就テハ在學中御規則堅ク相守リ修了後ハ御規則ニ遵ヒ本縣下教育ニ從事スヘキハ勿論在學中身上ニ關スル事件ハ保證人ニ於テ悉皆引受可申若シ半途退學ヲ命セラレ在學中御給與ノ費金償還ヲ要スルトキハ保證人ニ於テ連帶責任ヲ以テ直ニ償還可致依テ保證人連署ノ上誓書差出候也

現住所族籍

戸主又ハ離子弟

年 月 日

現住所族籍

保證人 氏 名 印

福岡縣師範學校校長何某殿

前記保證人ハ本市町村内ニ居住シ現ニ一家計ヲ立ツル丁年以上ノ男子ニシテ保證ノ責ニ任シ得ル者ト認ム

年 月 日 市町村長 氏 名 印

第二十七條 保證人ハ身元確實ニシテ生徒ノ身上ニ關スル一切ノ事件ニ對シ保證ノ

責ニ任シ左ノ資格ヲ有スルモノタルヘシ

一 本人ノ父兄後見人又ハ確實ナル縁故アルモノ

一 本縣下ニ居住スル丁年以上ノ男子ニシテ一家計ヲ立ツルモノ

第二十八條 師範學校ヨリ一里以外ニ在ル保證人ハ急劇ノ用ニ應セシムヘキ爲別ニ

一里以内ニ居住スル代理者ヲ定メ豫メ其住所氏名ヲ學校長ニ届出ツヘシ但保證人

代理者ハ前條第二項第三項ノ資格ヲ有スルモノタルヘシ

第二十九條 師範學校長ニ於テ保證人及保證人代理者ヲ不充分ト認ムルトキハ之ヲ

代ヘシムルコトアルヘシ

第三十條 講習科生徒ノ管理ニ係ル細則ハ師範學校長之ヲ定ム

○小學校女子教員講習科規程 (明治三十六年三月十七日福岡縣令第一六號)

- 第一條 小學校女子教員講習科ハ尋常小學校教員ノ急需ニ應スルヲ以テ目的トス
 - 第二條 講習科生徒ノ定員ハ四十名トシ之ヲ一學級ニ編制ス
 - 第三條 講習科ノ修業年限ハ一ヶ年トス
 - 第四條 學年學期及休業日ハ本校規則第四條第五條ニ據ル
 - 第五條 講習科生徒ノ募集ハ毎年四月ニ之ヲ行フ
 - 第六條 講習科生徒ハ本縣在籍ノ女子ニシテ左ノ資格ヲ有スル者ヨリ募集シ其品行身體學力等ヲ檢定シテ之ヲ選フモノトス
 - 一 品行方正身體健全ニシテ小學校教員ニ適當ナリト認ムル者
 - 二 年齡滿十五年以上滿二十五年以下ニシテ家事ニ係累ナキ者
 - 第七條 講習科生徒ハ左ノ二種ヨリ募集ス
 - 第一種 郡市長ノ薦舉ニ係ル者
 - 第二種 郡市長ノ薦舉ニ係ラサル者
 - 第八條 入學志願者ハ本縣尋常小學校准教員檢定ノ學科目及其程度ニ依リ學力ヲ試驗シ尙體格檢査及口答試問ヲ行フ但本縣尋常小學校准教員以上ノ免許狀ヲ有スル者又ハ高等學校ヲ卒業シタル者ニハ入學試驗ヲ行ハス
- 前項但書ニ該當スト雖モ其ノ應募者ノ數定員ニ超過シタルトキハ選拔試驗ヲ行フ

コトアルヘシ

第九條 入學試験ノ方法ハ本科募集細則第三條乃至第六條ヲ適用ス

第十條 入學ヲ許可スルニハ初メ試験生トシテ四ヶ月以内假ニ入學セシメ其資性品行ヲ審査シ適當ト認ムル者ニ限リ入學ヲ許可ス

第十一條 講習科生徒ニ課スヘキ學科目及其ノ程度左ノ如シ但教授ノ要旨ハ女子師範學校本科ニ準ス

一 修身 教育ニ關スル勅語ノ旨趣ニ基キテ人倫道德ノ要領ヲ授ク

一 教育 修身ヲ教授スル順序方法ノ大畧ヲ授ク
總論德育智育體育論ノ一班管理法ノ概要教授ノ原則ヲ授ク
實地授業

一 國語 講讀、文法、作文ヲ授ク
讀方綴方ヲ教授スル順序方法ノ大畧ヲ授ク

一 歴史 國初ヨリ現今ニ至ル事歴ノ概要ヲ授ク
歴史ヲ教授スル順序方法ノ大畧ヲ授ク

一 地理 日本地理及外國地理ノ概略ヲ授ク
地理ヲ教授スル順序方法ノ大畧ヲ授ク

一 算術 筆算ハ表數法ヨリ開平開立迄ヲ授ケ珠算ハ加減乘除及其ノ雜題ヲ授ク
算術ヲ教授スル順序方法ノ大畧ヲ授ク

一 理科 博物理化學及人身生理ノ概要ヲ授ク
理科ヲ教授スル順序方法ノ大畧ヲ授ク

一 習字 楷書、行書
書方ヲ教授スル順序方法ノ大畧ヲ授ク

一 圖畫 實物模型手本ニ就キテ自在畫ヲ授ク
圖畫ヲ教授スル順序方法ノ大畧ヲ授ク

一 音樂 近易ナル單音唱歌ヲ授ク
唱歌ヲ教授スル順序方法ノ大畧ヲ授ク

一 體操 遊戲、普通體操
體操ヲ教授スル順序方法ノ大畧ヲ授ク

一 裁縫 通常衣服ノ縫方裁方ヲ授ク
裁縫ヲ教授スル順序方法ノ大畧ヲ授ク

第十二條 每週教授時間ハ三十四時トス

第十三條 各學科每週教授時間ノ配當左ノ如シ

一 修身	每週	一時
一 教育	全	五時
一 國語	全	五時
一 歴史	全	二時
一 地理	全	二時
一 算術	全	五時
一 理科	全	二時

小學校女子教員講習科規程

- 一 習字 全 一時
- 一 圖畫 全 二時
- 一 音樂 全 二時
- 一 体操 全 三時
- 一 裁縫 全 四時

第十四條 後學期中二ヶ月以上小學校兒童教育ノ方法ヲ實習セシム

第十五條 學年末ニ於テ學年成績ヲ調査シ合格者ニハ修了證書ヲ授與ス但成績調査ノ方法ハ本校規則第十一條乃至第十五條ニ據ル

第十六條 修了證書ヲ得タルモノハ滿三ヶ年間本縣内(郡市長ノ薦舉ニ係ルモノハ其郡市内)ニ於テ知事指命ノ小學校ニ奉職スル義務アルモノトス

第十七條 講習科生徒ハ總テ學校ヨリ指定シタル場所ニ寄宿セシム

第十八條 講習科生徒ハ一人ニ付食費其他ノ手當トシテ一ヶ月金五圓ヲ給ス但退舍中ノ生徒ニハ之ヲ給セス

第十九條 講習科生徒ハ定期休業ノ外歸郷スルコトヲ得ス但父母ノ病氣等ニ依リ學校長ノ特許ヲ得タル者ハ此限リニアラス

第二十條 講習科生徒ハ自己ノ便宜ニヨリ退學スルコトヲ得ス

第二十一條 病氣又ハ學業不進等ニヨリ成業ノ見込ナキ者ハ退學ヲ命スルコトアル

ハシ

第二十二條 本校規則第十八條乃至第二十二條ハ講習科生徒ニ適用ス

第二十三條 在學中退學ヲ命セラレ或ハ終了後謂レヤク第十六條ノ義務ヲ盡サス又ハ免許狀褫奪ノ處分ヲ受ケタル者ハ其情狀ニヨリ在學中給與シタル學資ノ全部若クハ幾部ヲ償還セシム

第二十四條 修了證書ノ書式ハ左ノ如シ

修了證書
族籍
氏名
生年月日
右ハ本校ニ於テ小學校教員講習科ヲ修了セリ依テ之ヲ證ス
年月日
(印) 福岡縣女子師範學校長位勳氏名印
番号

第二十五條 入學志願者ハ願書第一種ハ一号書式第二種ハ三号書式ニ左ノ書類ヲ添

所在地ノ郡市役所ヲ經テ學校長ヘ差出スヘシ

一郡市長薦舉書(二号書式)第一種ニ限ル

一履歷書 (四号書式)

一身體檢查書 (五号書式)

一戶籍謄本

(第一號書式) 用紙半紙罫紙

入 學 願

某(志願者ノ名)儀小學校教員志願ニ付御校小學校教員講習科ニ入學ノ許可ヲ
得度何郡(市)長薦舉書履歷書身體檢查書及戶籍謄本相添此段相願候也

現住所族籍

戶主又ハ戶主トノ續柄

氏 名 印

生年月日

福岡縣女子師範學校長何某殿

(第二號書式)

薦 舉 書

族 籍

氏 名

右ノ者豫テ當郡(市)内小學校教員志願ニ付今般小學校教員講習科生徒ノ募集
ニ應シ度旨申出候尤モ同人儀ハ其資性品行等小學校教員ニ適當ノ者ト認メ候
ニ付薦舉候也

年 月 日

何郡(市)長

氏

名 印

(第三號書式) 用紙半紙罫紙

入 學 願

某(志願者ノ名)儀小學校教員志願ニ付御校小學校教員講習科ニ入學ノ許可ヲ
得度別紙履歷書身體檢查書及戶籍謄本相添此段相願候也

現住所族籍

戶主又ハ戶主トノ續柄

氏 名 印

生年月日

年 月 日

福岡縣女子師範學校長何某殿

前書志願者ハ小學校教員タルニ於テ差支ノ廉無之依テ證明候也

年 月 日

市町村長

氏

名 印

小學校女子教員講習科規程

八三九

(第四號書式)

履 歷 書

生所 何府縣何國何郡(市)何町(村)

氏 名

生年月日

- 一 何年何月ヨリ何年何月マテ何所何學校又何誰ニ就キ何學科修業
- 一 何年何月何所何學校ニ於テ何科卒業證書ヲ受領ス
- 一 卒業證書ノ寫
- 一 免許狀ノ寫
- 一 何年何月ヨリ何年何月マテ何職ニ從事ス
- 一 何年何月ヨリ何年何月マテ何學校何教員奉職
- 一 何年何月何所ニ於テ何廉ニ付何賞ヲ受ケ何罰ヲ受ケ
- 一 何々

右ノ通相違無之候也

年 月 日

氏 名 印

(第五號書式)

身 体 檢 査 書

族 籍

氏 名

生年月日

- 一 身長 メートル法ヲ用フルヲ可トス
- 一 体 重 キログラム若クハ貫ヲ用フルヲ可トス
- 一 肺 量 ハンチンソソ氏肺量器ヲ用フルヲ可トス
- 一 視 力 ステルソソ氏視力表ヲ用フルヲ可トス
- 一 聽 力 強弱甲乙丙三等ニ區別ス
- 一 体 質 健否甲乙丙三等ニ區別ス
- 一 体 格 良否甲乙丙三等ニ區別ス
- 一 腋臭其他諸慢性病ノ有無(既往何病云々現在全上)

(右ノ外現存セル疾患及變形ハ總テ記載スルヲ要ス)

右検査候處相違無之候也

年 月 日 學校醫學校醫アラサル地方ハ其資格ヲ有スル者 氏 名 印

第二十六條 假入學ノ許可ヲ得タル者ハ左ノ書式ニ依リ保證人連署ヲ以テ誓書ヲ差出スヘシ

誓 書

小學校女子教員講習科規程

貳錢收○ 本人印
入印紙○ 保證人印

某儀令般御校小學校教員講習科ニ入學御許可相成候ニ就テハ在學中御規則堅ク相守リ修了後ハ御規則ニ遵ヒ本縣下教育ニ從事スヘキハ勿論在學中身上ニ關スル事件ハ保證人ニ於テ悉皆引受可申若シ半途退學ヲ命ヒラレ在學中御給與ノ學資償還ヲ要スルトキハ保證人ニ於テ連帶責任ヲ以テ直ニ償還可致依テ保證人連署ノ上誓書差出候也

現住所族籍

戸主又ハ戸主トノ續柄

年 月 日

氏 名 印

現住所族籍

保證人 氏 名 印

福岡縣女子師範學校長何某殿

第二十七條 保證人ハ身元確實ニシテ生徒ノ身上ニ關スル一切ノ事件ニ對シ保證ノ責ニ任シ左ノ資格ヲ有スル者タルヘシ
一本人ノ父兄後見人又ハ確實ナル縁故アル者

一本縣下ニ居住スル丁年以上ノ男子ニシテ一家計ヲ立ツル者

第二十八條 學校所在地ヨリ一里以外ニ在ル保證人ハ急劇ノ用ニ應セシムヘキ爲メ別ニ一里以内ニ居住スル代理者ヲ定メ豫メ其住所氏名ヲ學校長ニ届出ツヘシ但保證人代理者ハ前條第二項第三項ノ資格ヲ有スル者タルヘシ

第二十九條 學校長ニ於テ保證人及保證人代理者ヲ不充分ト認ムルトキハ之ヲ代ヘシムルコトアルヘシ

第三十條 講習科生徒ノ管理ニ係ル細則ハ學校長之ヲ定ム

◎教科用圖書

○師範學校教科用圖書教員會ニ付議方

明治二十年三月二十五日
文部省勅令第四號

北海道廳 府縣

師範學校教科用圖書ノ儀ハ該學校教員ノ會議ニ付シ取調ノ上文部大臣ノ裁定ヲ經ヘ

師範學校教科用圖書教員會ニ付議方

◎設 備

○師範學校設備規則 明治二十五年七月十一日
文部省令第十二號

第一條 師範學校ニ於テハ校地、校舍、寄宿舎、體操場及校具ヲ備フヘシ

第二條 校地、校舍、體操場及校具ハ學校ノ規模ニ適應スルヲ要ス

校地ハ道德上並ニ衛生上善ナキ所タルヘシ

校舍ハ教授上、管理上、並ニ衛生上適當ニシテ質朴堅牢ナランコトヲ要ス
(明治三十七年二月文部省令第二號ヲ以テ以上二條改正)

第三條乃至第九條 (全上削除)

第十條 師範學校ニ附屬小學校ヲ設クヘシ附屬小學校ノ設備ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第十一條 女生徒ノ爲ニ師範學校ニ便宜附屬幼稚園ヲ設クヘシ

第十二條 土地ノ情況ニ依リ便宜學校長舎監等ノ住宅ヲ設クヘシ

第十三條 學校ノ位置ヲ選定セントスルトキハ地方長官ニ於テ校地ノ區域、面積、地質、並ニ附近ノ情況ヲ記載シタル圖面及飲料水ノ定性分析表ヲ具シテ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ但校地外ニ體操場ヲ設ケントスル場合ニ於テハ其ノ區域、面積、附近ノ情況、並ニ校地トノ距離ヲ具スルヲ要ス

校舍及寄宿舎ノ建設又ハ變更ハ圖面ヲ具シテ文部大臣ニ開申スヘシ

(明治三十六年三月五日文部省令第三號ヲ以テ改正)

◎職員名稱及待遇

○師範學校官制

明治二十四年十一月十六日
勅令第二百十七號

第一條 師範學校ニ左ノ職員ヲ置ク

- 學 校 長
- 教 諭
- 助 教 諭
- 令 監
- 訓 導
- 書 記

第二條 教諭助教諭令監訓導及書記ハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受ク但教諭三名以内ハ特ニ委任文官ト同一ノ待遇ヲ受ケシールコトアルヘシ (明治三十一年勅令第三十二號ヲ以テ改正)

第三條 學校長ハ府知事ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ統督シ兼テ其府縣内ニ於ケル小學教育ニ屬スル學事ヲ觀察ス (明治二十六年勅令第八十五號ヲ以テ改正)

第四條 教諭ハ生徒ノ教育ヲ掌ル

第五條 助教諭ハ教諭ノ職掌ヲ助ク

第六條 令監ハ教諭助教諭ノ中ヨリ之ニ兼任ス

師範學校官制

舍監ハ學校長ノ命ヲ承テ寄宿舎ニ關スル事ヲ掌ル

第七條 訓導ハ附屬小學校兒童ノ教育ヲ掌ル

第八條 書記ハ學校長ノ命ヲ承テ庶務會計ニ從事ス

第九條 教諭助教諭舍監訓導及書記ノ人員及俸額ハ文部大臣之レヲ定ム

(明治三十年文部省令第十九號ヲ以テ人員同三十一年文部省令第十七號ヲ以テ俸額改正公布)

第十條 府縣知事ハ教諭ノ中ヨリ附屬小學校主事ヲ命シ校務ヲ掌ラシム

附 則

第十一條 本令ハ明治二十五年四月一日ヨリ施行ス

○府縣立師範學校長任命及俸給令 明治二十四年八月十七日勅令第百七十二號

第一條 府縣立師範學校長ハ奏任トス

第二條 府縣立師範學校長ノ年俸ハ別表ニ依リ之ヲ支給ス但シ特ニ功勞アリ五箇年

以上一級俸ヲ受クル者ハ年俸二千圓マテ増俸スルコトヲ得 (明治三十一年勅令第百三十

一號ヲ以テ但書追加)

第三條 本令ニ規定スルモノ、外總テ本年勅令第八十二號高等官任命及俸給令ニ依

ル (明治二十五年勅令第九十六號高等官官等俸給令ヲ以テ高等官任命及俸給令廢止)

附 則

第四條 本令ハ明治二十五年四月一日ヨリ施行ス

(別表) (明治三十一年勅令第百三十一號ヲ以テ改正)

一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級
千八百圓	千六百圓	千四百圓	千二百圓	千圓	九百圓	八百圓

○府縣立師範學校長特別任用令 明治二十六年十月三十日
勅令第九十三號
府縣立師範學校長ハ高等師範學校ノ卒業證書ヲ有スル者又ハ學位若クハ學士ノ稱號
ヲ有シ一箇年以上教育ニ關スル公務ニ從事シタル者又ハ三箇年以上教育ニ關スル公
務ニ從事シ現ニ三十圓以上ノ月俸ヲ受クル判任官又ハ判任官待遇ノ者ニ限リ試験ヲ
要セス文官高等試験委員ノ銜ヲ經テ任用スルコトヲ得

○師範學校教諭助教諭舍監訓導及書記ノ人員

(明治三十年十月十一日文部省令第十九號)

明治二十五年文部省令第十四號師範學校教諭助教諭舍監訓導及書記ノ人員ヲ改正スルコト左ノ如シ但明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

師範學校教諭助教諭舍監訓導及書記ノ人員

第一條 教諭助教諭ハ左ノ割合ニ依リテ配置スヘシ

一 生徒四學級以下ノ學校ニ於テハ一學級毎ニ教諭助教諭各專任一人トス但教諭ヲ以テ本文ノ人員ニ充ツルコトハ妨ケナシ

二 生徒五學級以上七學級以下ノ學校ニ於テハ本項第一款ノ割合ニ依リテ定ムヘキ總人員ヨリ教諭若クハ助教諭一人ヲ減シ以上一學級ヲ加フル毎ニ七學級ノ場合ノ定員ニ對シ教諭一人ツ、ヲ増ス

外國語、農業、商業及手工ノ中一科目ヲ課スル毎ニ其ノ科目ノ學級數八學級以下ナルトキハ教諭若クハ助教諭專任一人、九學級以上ナルトキハ同二人ノ割合ヲ以テ前項ノ人員ヲ増スヘシ

第一項ノ教諭助教諭中女教員ノ人員ハ少クトモ女生徒ノ學級數ニ等シキヲ要ス

第三條 舍監ノ人員ハ男子ハ三人以上女子ハ二人以上トス但女子舍監ノ人員ハ適當ノ者ヲ得サル場合ニ於テハ一人ニ減スルコトヲ得

書		訓	
記		導	
四十圓		五十圓	
下	上	下	上
三十圓	三十五圓	四十圓	四十五圓
二十三圓	二十六圓	三十圓	三十五圓
十七圓	二十圓	二十圓	二十五圓
十二圓	十四圓	十五圓	十七圓

八五八

○師範學校職員著服一定方

明治二十一年九月十五日
文部省訓令第第二號

北海道廳 府縣

師範學校職員ノ義ハ殊ニ容儀ヲ正シ威重ヲ保タシムルコト職務上必要ニ付自今該學校長教員幹事舍監ハ執務上一定ノ服ヲ着用セシムヘシ

但本文改正一時ニ行届キ雖キモノハ來明治二十二年六月迄猶豫スルコトヲ得

師範學校職員著服一定方

八五九

○師範學校長旅費減額報告方

明治三十一年八月二日
文部大臣訓令

北海道廳 府縣

内國旅費規則第十五條ニ依リ師範學校長ノ旅費額ヲ減少セントスルトキハ自今經伺
テ要セス處分ノ後報告スヘシ

●師範學校男職員服制

明治三十二年五月廿七日
福岡縣訓令第二七三號

師範學校

明治二十一年十月廳達第九十五號其校男教員服制左ノ通り改正ス

師範學校男職員服制

第一種正裝 諸儀式ニ用ユ

フロックコート 黒色 山高帽 黒色

第二種常服 平常執務上ニ用ユ

詰襟背廣 黒色若クハ濃紺色ニシテ上下共同色（夏期ハ上下共白色又ハ下ノミ

白色ヲ用ユルコトヲ得）

帽 海軍形帽子ニ櫻形徽章ヲ附ス（夏期ハ白布ヲ覆フ）

明治三十二年八月四日
福岡縣訓令第三八五號
福岡縣師範學校
其校職員俸給手當旅費支給方
立實業學校職員俸給手當旅費給與規則第一條俸給額表ヲ除キ之ヲ適用ス

○師範學校職員俸給手當旅費支給方

明治三十二年八月四日
福岡縣訓令第三八五號

福岡縣師範學校

其校職員俸給手當旅費支給方ハ自今本年縣令第三四號公立中學校公立高等女學校公立實業學校職員俸給手當旅費給與規則第一條俸給額表ヲ除キ之ヲ適用ス

師範學校職員俸給手當旅費支給方

◎生徒及卒業生

○師範學校生徒定員

明治三十年十月六日
勅令第三百四十七號

第一條 師範學校ハ道府縣管内學齡兒童數三分ノ二ニ對シ一學級七十名ノ割合ヲ以テ算出スル全學級數ノ二十分ノ一以上ニ相當スル卒業生ヲ出スニ足ルヘキ生徒ヲ毎年募集スヘシ

第二條 男女生徒員數ノ割合ハ地方長官之ヲ定メ文部大臣ニ開申スヘシ

第三條 地方ノ 況ニ依リ女生徒ヲ置カサルトキハ其ノ事由ヲ具シテ文部大臣ノ認可ヲ經ヘシ

附 則

第四條 本令ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

設備ノ都合ニ依リ已ムヲ得サル場合ニ於テハ地方長官ハ文部大臣ノ許可ヲ受ケテ前項期限ヨリ一箇年以内生徒定員ニ關スル從前ノ規程ヲ適用スルコトヲ得

○師範學校生徒募集規則 明治二十五年七月十一日

第一條 (明治三十年文部省令第二十六號ヲ以テ削除) 文部省令第十號

第二條 師範學校ノ生徒ハ左ノ資格ヲ有スル者ヨリ募集シ其身體品行學力等ヲ檢定シテ之ヲ選フヘシ

- 一 身體健全品行方正ニシテ小學校教員タルニ適當ナリト認ムル者
- 二 尋常小學校ノ本科准教員タルヘキ免許狀ヲ有シ若クハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者

三 男子ハ年齡十六年以上二十年未滿女子ハ年齡十五年以上二十年未滿ノ者但特別ノ事情アルトキハ二十年以上二十五年以下ノ者ヲ入學セシムルコトヲ得

(明治三十一年文部省令第十號ヲ以テ改正)

第三條 師範學校ノ各學級ニ缺員アルトキ前條第一款ノ資格ヲ有シ學力年齡トモ該學級ニ相當スル者ヲ以テ補缺スルコトヲ得 (明治二十七年文部省令第十號ヲ以テ但書削除)

第四條 (明治三十一年文部省令第十八號ヲ以テ削除)

第五條 入學ヲ許可セントスルトキハ初メ試驗生トシテ四箇月以内假ニ入學セシメ其資性品行等ヲ審察シ適當ト認ムル者ニ限リ本入學ヲ許可スヘシ但師範學校ノ豫備科卒業生ヲ入學セシムル場合ニ於テハ本文ニ依ルノ限ニ在ラス

第六條 此規則ニ關スル細則ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ定ムヘシ

○師範學校ニ於テ入學セシムベカラサル條件ノ規程

(明治三十五年二月二十四日文部省令第五號)

- 高等師範學校、女子高等師範學校及師範學校ニ於テハ其ノ入學志望者ニシテ左ノ各項ノ一ニ該當スルモノヲ入學セシムヘカラス
- 一 明治三十三年文部省令第四號學生生徒身體檢査規程第五條第一項第七號ノ體格薄弱ニ屬スル者
 - 二 精神機能ニ障害アル者
 - 三 傳染病性眼疾ヲ患フル者又ハ眼鏡ヲ以テ補正スルコト能ハサル近視亂視弱視等ヲ有スル者
 - 四 聽官又ハ言語ノ障害著シキ者
 - 五 肺結核其他結核ノ諸兆アル者
 - 六 心臟瓣膜病ヲ患フル者
 - 七 惡性腫瘍腎臟炎糖尿病重症貧血等ヲ患フル者
 - 八 修學上ニ妨アル疾病ニ罹リ急治ノ見込ナキ者若ハ他ニ感染ノ虞アル疾病ヲ患フル者

附 則

本令ハ明治三十五年三月一日ヨリ施行ス

師範學校ニ於テ入學セシムベカラサル條件ノ規程

大正十一年四月一日ヨリ施行ス
師範學校私費生規則
第一條 師範學校ニ於テ私費生ヲ置カントスルトキハ地方長官ハ其ノ員數ヲ定メ文
部大臣ノ認可ヲ受クヘシ
第二條 私費生ハ文部省令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルモノ、外總テ公費生ト同シキ
モノトス
第三條 私費生ニ關シ必要ナル規則ハ地方長官之ヲ定ム
附 則
第四條 此省令ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

○師範學校私費生規則 明治三十年十月十一日 文部省令第二十一號

第一條 師範學校ニ於テ私費生ヲ置カントスルトキハ地方長官ハ其ノ員數ヲ定メ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二條 私費生ハ文部省令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルモノ、外總テ公費生ト同シキモノトス

第三條 私費生ニ關シ必要ナル規則ハ地方長官之ヲ定ム
附 則

第四條 此省令ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

師範學校ニ於テ支給スヘキ生徒ノ學費ニ關スル規定
(明治二十四年十一月十七日文部省訓令第七號)

○師範學校ニ於テ支給スヘキ生徒ノ學費ニ關スル規定

(明治二十四年十一月十七日文部省訓令第七號)

北海道廳 府縣

明治十九年(四月)勅令第十三號師範學校令第九條ニ依リ師範學校ニ於テ支給スヘキ生徒ノ學費ハ食物被服及雜費ノ三種目トシ其支給方法ハ府縣知事ニ於テ之ヲ定メ本大臣ノ認可ヲ經ヘシ但明治二十五年(度)ニ在リテハ其經費豫算ノ決定シタルモノハ本文ニ依ルノ限ニ在ラス (明治三十一年勅令第三百四十六號ヲ以テ師範教育令發布師範學校令廢止)
明治十九年(六月)文部省訓令第四號ハ之ヲ廢止ス

師範學校ニ於テ支給スヘキ生徒ノ學費ニ關スル規定

師範學校退學生徒學費償還方

明治二十二年十月二十五日
文部省訓令第四號
北海道廳 府縣
師範學校退學生徒學費償還方
師範學校退學生徒中不都合ノ行爲アルヲ以テ退學ヲ命スルモノアルトキハ在學中給與シタル學費ヲ償還セシムヘシ

○師範學校退學生徒學費償還方

明治二十二年十月二十五日
文部省訓令第四號

北海道廳 府縣

師範學校退學生徒中不都合ノ行爲アルヲ以テ退學ヲ命スルモノアルトキハ在學中給與シタル學費ヲ償還セシムヘシ

○師範學校卒業生服務規則 明治二十五年七月十一日
文部省令第十一號

明治十九年(五月)文部省令第十一號師範學校卒業生服務規則ヲ改正スルコト左ノ如シ但明治二十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

師範學校卒業生服務規則

第一條 師範學校卒業生ハ左ノ服務年限間其道府縣内ニ於テ小學校教員ノ職ニ從事スルノ義務ヲ有ス但第二條ノ義務ヲ奉リタル者ハ小學校ニアラサル官立公立學校教員ノ職若クハ學務ニ關スル他ノ公職ヲ以テ本文ノ職ニ代フルコトヲ得

一 男子卒業生ノ服務年限ハ卒業證書受得ノ日ヨリ十箇年トス

二 女子卒業生ノ服務年限ハ卒業證書受得ノ日ヨリ五箇年トス

第二條ノ義務ヲ奉リタル者ニシテ特別ノ事情アルトキハ北海道廳長官府縣知事ノ許可ヲ受ケ他ノ道府縣内ニ於テ就職スルコトヲ得

第二條 師範學校卒業生ハ其道府縣内ニ於テ左ノ年限間北海道廳長官府縣知事ノ指定スル小學校教員ノ職ニ從事スルノ義務ヲ有ス (明治三十一年文部省令第十八號ヲ以テ改正發令後ノ入學者ニ適用)

一 男子卒業生ハ卒業證書受得ノ日ヨリ五箇年

二 女子卒業生ハ卒業證書受得ノ日ヨリ二箇年

第三條 (同上削除)

第四條 第一條第二條ノ義務ヲ盡ス能ハサルノ事故アル者ハ其理由ヲ具シテ北海道廳長官府縣知事ノ指揮ヲ請フヘシ

北海道廳長官府縣知事ハ第一條第二項ニ依リ他ノ道府縣内ニ於テ就職スルコトヲ許可スル者又ハ前項ニ依リ義務ヲ免除スル者ニ就キ其情狀ニ依リ在學中給與シタル學資ノ全部若クハ幾部ヲ償還セシムルコトヲ得

第五條 (同上)

第六條 師範學校卒業生服務中ノ者ニシテ左ニ掲クル者アルトキハ其情狀ニ依リ北海道廳長官府縣知事ハ在學中給與シタル學資ノ全部若クハ幾部ヲ償還セシムヘシ

一 謂レナク第一條第二條ノ義務ヲ盡サ、ル者

二 免許狀被奪ノ處分ヲ受ケタル者

第七條 此規則ニ關スル細則ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ定ムヘシ

○師範學校私費卒業生ノ服務 明治三十一年二月五日 文部省令第四號

明治二十五年文部省令第十一號師範學校卒業生服務規則第一條ノ服務年限ハ私費卒業生ニ關シテハ男子卒業生ハ三箇年、女子卒業生及簡易科卒業生ハ二箇年トス又同條第一項但書、第二項及第二條ハ私費卒業生ニ適用セス

○福岡縣師範學校生徒募集細則 明治三十二年十二月八日
福岡縣令第六四號

第一條 師範學校生徒ハ毎年二回(四月十月)之ヲ募集ス其ノ期日及員數等ハ其ノ都
度學校長之ヲ廣告ス (明治三十六年三月十八日福岡縣令第十八號ヲ以テ改正)

第二條 學力ノ檢定ハ尋常小學校本科准教員檢定試驗ノ程度ニ依ル

第三條 學力ノ檢定ヲ分チテ豫備試驗本試驗ノ二種トシ本試驗ハ豫備試驗ニ合格シ
タルモノニツキテ之ヲ行フ

第四條 豫備試驗ハ入學志願者所在ノ郡市役所ニ於テ之ヲ行フ但福岡市所在ノ入學
志願者ハ師範學校ニ於テ之ヲ行フ

郡市長ハ師範學校長ヨリ送付シタル試驗問題及時間割ニヨリ其郡市内入學志願者
ノ豫備試驗ヲ行ヒ各學科試驗終了ノ都度其答案ヲ封緘シ全試驗終了ノ後之ヲ取廻
メ直ニ師範學校長ニ送付スヘシ

第五條 本試驗ハ師範學校ニ於テ之ヲ行フ

第六條 入學志願者ハ願書(第一號書式)ニ市町村長ノ品行證明ヲ得左ノ書類ヲ添ヘ
所在地ノ郡市役所ヲ經テ師範學校長ニ差出スヘシ

一 履歷書(第二號書式)及學業證書免許狀寫

二 身體檢查書(第三號書式)

三 戶籍謄本(戶籍吏ノ證明アルモノニ限ル)

福岡縣師範學校生徒募集細則

第七條 假入學ノ許可ヲ得タルモノハ保證人二名ノ連署ヲ以テ誓約書(第四號書式)ヲ差出スヘシ

第八條 前條保證人ハ左ノ資格ヲ有スルモノタルヘシ
一本人ノ父兄後見人又ハ確實ナル緣故アル者
一本縣下ニ居住スル丁年以上ノ男子ニシテ一家計ヲ立ツル者
一身元確實ニシテ生徒ノ身上ニ關スル一切ノ事件ニ對シ保證ノ責ニ任シ得ル者

第九條 保證人ノ住所兩名共學校所在地ヨリ一里以外ニアルモノハ別ニ其以內ニ居住スル者壹名ヲ保證人代理者ト爲シ豫テ師範學校長ニ届出ツヘシ

前項保證人代理者ハ第八條第二項第三項ノ資格ヲ具フルモノタルヘシ

第十條 師範學校長ニ於テ保證人及保證人代理者ヲ不十分ト認ムルトキハ之ヲ代ヘシムルコトアルヘシ (左記書式中全上)

第一號書式 (用紙半紙野)

入學願

某儀小學校教員志願ニ付御校へ入學致度御許可ノ上ハ御規則ヲ遵守スルハ勿論成業後誓テ教員ノ職ニ從事可仕候因テ履歷書身体検査書及戶籍謄本相添此段相願候也

現住所族籍

年 月 日

戶主又ハ誰子弟

氏

名 印

福岡縣師範學校長氏名殿

前書志願人ハ品行方正ニシテ不都合ノ行爲等無之候也

福岡縣市町村長 氏

名 印

第二號書式 (用紙半紙野)

履歷書

住所

何府縣何都市
何町村何番地

族籍

氏

名

生 年 月

學業

年	月	數	學	科	校名	師名
自明治何年何月	何年何月	何年何月	何學	修學又ハ卒業	、、、、、	、、、、、
至明治何年何月	何年何月	何年何月				

業務

年	月	數	職	名	校名	等
自明治何年何月	何年何月	何年何月	何々	奉職	、、、、、	、、、、、
至明治何年何月	何年何月	何年何月				

賞罰

何年何月何日 何々ノ件ニ付何賞又ハ何罰ヲ受ク 何 所

學業證書寫

免許狀寫

右之通ニ候也

年 月 日

右

氏

名

印

第三號書式

身體検査書

族籍

氏

名

年月日生

- 一 身長 メートル法ヲ用フルヲ可トス
- 一 體量 キログラム若クハ貫ヲ用フルヲ可トス
- 一 肺量 ハンチンソン氏肺量器ヲ用フルヲ可トス
- 一 視力 スチルレン氏視力表ヲ用フルヲ可トス
- 一 聽力 強弱甲乙丙三等ニ區別ス
- 一 體質 健否甲乙丙三等ニ區別ス

一體格 良否甲乙丙三等ニ區別ス

一 腋臭其ノ他諸慢性病ノ有無既往何病云々 現在同上

(右ノ外現存セル疾患及變形ハ總テ記載スルヲ要ス)

右検査候處相違無之候也

年 月 日

公立病院(病院ニアラサレバ其ノ族籍) 氏

名 印

第四號書式 (用紙半紙野)

○水 人印

○保證人印

○全 上

誓 約 書

某儀今般御校へ入學御許可相成候ニ就テハ在學中御規則堅ク相守リ卒業後ハ御規則ニ遵ヒ本縣下教育ニ從事スヘキハ勿論在學中身上ニ關スル事件ハ保證人ニ於テ悉皆引受可申若シ半途退學ヲ命セラレ在學中ノ學資償還ヲ要スルトキハ保證人ニ於テ連帶責任ヲ以テ直ニ償還可致依テ連署ノ上誓約書差出候也

年 月 日

現住所族籍

戸主又ハ誰子弟

氏

名

印

現住所族籍

八八七

保証人 氏 名 印

全 氏 名 印

福岡縣師範學校校長氏名殿

前記保証人何某ハ本市町村内ニ居住シ現ニ一家計ヲ立ツル丁年以上ノ男子ニシテ保証ノ責ニ任シ得ル者ト認ム

年 月 日 市町村長 氏 名 印

(保証人兩名其ノ居住市町村ヲ異ニスルトキハ各住居地ノ市町村長ノ証明ヲ得ルヲ要ス)

附 則

第十一條 本令第一條ハ明治三十四年一月一日ヨリ其他ハ發布ノ日ヨリ施行ス

福岡縣師範學校生徒學費支給規則

(明治三十六年三月十八日福岡縣令第一九號)

第一條 本校生徒ニハ在學中食費被服等ヲ給ス

但食費ハ歸郷中ノ者ニハ一切之ヲ給セズ

第二條 被服ハ一定ノ時期ヲ定メ之ヲ給ス若シ所定ノ期限内ニ於テ之ヲ損傷シ更ニ交付ヲ要スルトキハ本人ヲシテ自辨セシム

第三條 一年生被服ハ總テ本入學ヲ許可シタル後之ヲ給ス

第四條 生徒ノ被服ハ左ノ六種トス

一 冬衣袴 (地質木綿小倉)

一 夏衣袴 (全 上)

一 以上二種ハ毎年一組ヲ給ス

一 外 套 頭巾付 (地質軍艦羅紗)

一 襟 在學中一枚ヲ給ス

一 靴 一ツ年一個ヲ給ス

一 靴 一ツ年一足ヲ給ス

一 靴

一 靴 一ツ年一足ヲ給ス

福岡縣師範學校生徒學費支給規則

一 帽子並日履

在學中二個ヲ給ス

第五條 半途退學ヲ命セラレタル者ニハ其時ノ現在品ヲ返納セシム

第六條 不都合ノ行爲アリテ退學セシメタル者ニハ本則ニ據リ在學中給與シタル費用ヲ償還セシム但シ情狀ニヨリ其ノ幾部ヲ免除スルコトアルヘシ

福岡縣女子師範學校生徒募集細則

(明治三十六年三月十五日福岡縣會第一四號)

第一條 本校生徒ハ毎年四月十月二回之ヲ募集ス其期日及員數ハ其都度學校長之ヲ廣告ス

第二條 學力ノ檢定ハ尋常小學校准教員檢定試驗ノ程度ニ依ル

第三條 學力ノ檢定ヲ分チテ豫備試驗本試驗ノ二種トシ本試驗ハ豫備試驗ニ合格シタルモノニ就キ之ヲ行フ

第四條 豫備試驗ハ入學志願者所在ノ郡市役所ニ於テ之ヲ行フ但早良郡所在ノ入學志願者ハ女子師範學校ニ於テ之ヲ行フ郡市長ハ學校長ヨリ送付シタル試驗問題及時間割ニ依リ其郡市内入學志願者ノ豫備試驗ヲ行ヒ各學科試驗終了ノ都度其答案ヲ封緘シ全試驗終了ノ後之ヲ取纏メ直ニ學校長ニ送付スヘシ

第五條 本試驗ハ女子師範學校ニ於テ之ヲ行フ

第六條 入學志願者ハ願書(第一號書式)ニ市町村長ノ証明ヲ得左ノ書類ヲ添ヘ所在

- 一 履歷書(第二號書式)及學業證書免許狀寫
- 二 身體檢查書(第三號書式)
- 三 戶籍謄本(戶籍吏ノ証明アルモノ)

福岡縣女子師範學校生徒募集細則

第七條 假入學ノ許可ヲ得タルモノハ保証人二名ノ連署ヲ以テ誓書(第四號書式)ヲ差出スヘシ

第八條 保証人ハ身元確實ニシテ生徒ノ身上ニ關スル一切ノ事件ニ對シ保証ノ責ニ任シ左ノ資格ヲ有スルモノタルヘシ
一本人ノ父兄後見人又ハ確實ナル縁故アル者
一本縣下ニ居住スル丁年以上ノ男子ニシテ一家計ヲ立ツル者

第九條 保証人ノ住所兩名トモ學校所在地ヨリ一里以外ニ在ル者ハ別ニ其以內ニ居住スル者一名ヲ保証人代理者ト爲シ豫テ學校長ニ届出ツヘシ

前項保証人代理者ハ第八條第二項第三項ノ資格ヲ具フル者タルヘシ

第十條 學校長ニ於テ保証人及保証人代理者ヲ不十分ト認ムルトキハ之ヲ代ヘシムルコトアルヘシ

第一號書式 (用紙半紙野紙)

入學願

某儀小學校教員志願ニ付御校へ入學致度御許可ノ上ハ御規則ヲ遵守スルハ勿論成業後誓テ教員ノ職ニ從事可仕候因テ履歷書身體檢查書及戶籍謄本相添此段相願候也

現住所族籍

年 月 日 戶主又ハ戶主トノ續柄 氏 名 印

福岡縣女子師範學校校長氏名殿 前書志願人ハ小學校教員タルニ於テ差支ノ虞無之依テ証明候也 福岡縣市町村長 氏 名 印

第二號書式 (用紙半紙野紙)

履歷書

住所何府縣何都市何町何番地 族 籍 氏 名 生年月月

年 月 數	學 科	校 名	師 名
自明治何年何月 至全何年何月	何年何月間	何學修學又ハ卒業	、 、 、 、 、 、

年 月 數	職 名	校 名	等
自明治何年何月 至全何年何月	何年何月間	何々奉職	、 、 、 、 、 、

福岡縣女子師範學校生徒募集細則

賞 罰

何年何月何日 何々ノ件ニ付何賞又ハ何罰ヲ受ク 何 所

學業証書寫

免許狀寫

右之通ニ候也

年 月 日 右 氏 名 印

第三號書式

身體檢查書

族 籍

氏 名

生年月日

- 一 身長メートル法ヲ用フルヲ可トス
- 一 體重キログラム若クハ貫ヲ用フルヲ可トス
- 一 肺量ハンチンソン氏肺量器ヲ用フルヲ可トス
- 一 視力スナルレン氏視力表ヲ用フルヲ可トス
- 一 聽力強弱甲乙丙三等ニ區別ス

- 一 體質健否甲乙丙三等ニ區別ス
 - 一 豫格良否甲乙丙三等ニ區別ス
 - 一 服臭其他諸慢性病ノ有無 既往何病云々 現在全上
- (右ノ外現存セル疾患及變形ハ總テ記載スルヲ要ス)
- 右検査候處相違無之候也

年 月 日 學校醫(學校醫アラサル地方) 氏 名 印

第四號書式 (用紙半紙野紙)

○ 本人印
 ○ 収入印
 ○ 保照人印
 ○ 書
 ○ 同 上

某儀今般御校へ入學御許可相成候ニ就テハ在學中御規則堅ク相守リ卒業後ハ御規則ニ遵ヒ本縣下教育ニ從事スヘキハ勿論在學中身上ニ關スル事件ハ保証人ニ於テ悉皆引受可申若シ半途退學ヲ命セラル在學中ノ學費償還ヲ要スルトキハ保証人ニ於テ連帶責任ヲ以テ直ニ償還可致依テ連署ノ上誓書差出候也

現住所族籍

戸主又ハ戸主トノ續柄

氏 名 印

福岡縣女子師範學校生徒募集細則

現住所族籍
 保証人 氏 名 印
 全 氏 名 印

福岡縣女子師範學校長氏名殿

前記保証人何某ハ本市町村内ニ居住シ現ニ一家計ヲ立ツル丁年以上ノ男子ニシテ保証ノ責ニ任シ得ル者ト認ム

年 月 日 市町村長 氏 名 印

(保証人兩名其居住市町村ヲ異ニスルトキハ各居住地ノ市町村長ノ証明ヲ得ルヲ要ス)

福岡縣女子師範學校生徒學費支給規則

(明治三十六年三月十七日福岡縣令第一五號)

- 第一條 本校生徒ニハ在學中食費被服等ヲ給ス但食費ハ歸郷中ノ者ニハ一切之ヲ給セズ
- 第二條 被服ハ一定ノ時期ヲ定メ之ヲ給ス若シ所定ノ期間内ニ於テ之ヲ損傷シ更ニ交付ヲ要スルトキハ本人ヲシテ自辨セシム
- 第三條 一年生ノ被服ハ總テ本入學ヲ許可シタル後之ヲ給ス
- 第四條 生徒ニ支給スヘキ被服ハ左ノ如シ
 - 一袴 (地質木綿又ハサワイ)
 - 一草履
- 第五條 半途退學ヲ命セラレタル者ニハ其時ノ現品ヲ返納セシム
- 第六條 不都合ノ行爲アリテ退學セシメタル者ニハ本則ニ據リ在學中給與シタル費用ヲ償還セシム但情狀ニ依リ其幾部ヲ免除スルコトアルヘシ

師範學校卒業生服務細則 (明治二十六年十一月七日福岡縣令第四七號)

第一條 (明治三十一年縣令第五二號ヲ以テ削除)

第二條 規則第四條第一項ノ場合ニ於テハ第二號書式ニ依リ願書(病氣ハ醫証ヲ添フ)ヲ在籍地郡市役所ヲ經テ知事ニ差出スヘシ

第三條 規則第四條第二項及第六條ノ場合ニ於テハ學費ノ全部若クハ幾部ヲ一時ニ償還セシム

第四條 (明治三十一年縣令第五二號ヲ以テ削除)

第二號書式

某儀何年何月何日何々尋常師範學校卒業致爾來小學校訓導ニ從事致居候處今
回何々ノ事故相生シ若クハ何病氣ニ罹リ何分勤務致兼候條明治二十五年文部
省令第十一號第一條又ハ第二條ノ義務ヲ卒ヘ難ク候ニ付特別ノ御詮議ヲ以テ
規則第一條若クハ第二條ノ義務御免除相成度右御許可相成候上ハ在學中ノ學
費ヲ償還可致ハ勿論ニ候別紙經歷書ヲ添ヘ此段相願候也

年 月 日

何府(縣)何國(郡)市何町(村)何番地居住(誰方同居)

何府縣華士族平民

自主誰長次男女弟妹等

九〇〇

本人 姓 名 印
父兄若クハ親戚 姓 名 印

福岡縣知事某殿

前書ノ通相違無之ニ付茲ニ証明候也

何郡市町村長 姓 名 印

◎附屬小學校

○師範學校附屬小學校規程

明治二十四年十一月十七日
文部省令第二十六號

師範學校附屬小學校規程ヲ定ムルコト左ノ如シ但明治二十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

師範學校附屬小學校規程

第一條 附屬小學校ハ明治二十三年(十月)勅令第二百十五號小學校令中小學校ノ本旨種類教科目修業年限教則教授時間ノ制限教科用圖書祝日大祭日ノ儀式休業日補習科等ニ關スル規程ニ準據スヘシ但教科目ノ加除補習科ノ設置廢止及修業年限ハ府縣知事之ヲ定メ文部大臣ニ開申スヘシ (明治三十一年文部省令第十八號ヲ以テ改正)

第二條 附屬小學校ノ設備ハ管内最多數ノ小學校ノ設備ヲ例トシ本年(十一月)文部省令第十五號小學校設備準則ニ準據シ府縣知事之ヲ定メ文部大臣ニ開申スヘシ (同上)

第三條 附屬小學校ノ學級ノ編制等ハ管内最多數ノ小學校ノ學級ノ編制等ヲ例トシ本年(十一月)文部省令第十二號小學校ノ學級編制等ニ關スル規則ニ準據シ府縣知事之ヲ定メ文部大臣ニ開申スヘシ但單級ノ制ニ依リタル學級ハ必ス之ヲ設クルコトヲ要ス (同上)

第四條 附屬小學校ノ授業料規則ハ府縣知事之ヲ定メ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ但師範學校附屬小學校規程

單級ニ編制シタル兒童ノ授業料ハ之ヲ徴収セザルコトヲ得 (明治三十年文部省令第十五號ヲ以テ改正)

第五條 附屬小學校ノ教員ハ小學校教員タルヘキ資格ヲ具フルコトヲ要ス

（以下は非常に淡く、ほとんど不可読な文字列が続く）

○師範學校附屬小學校ノ授業料額規定方

(明治三十年十一月十一日文部省訓令第十一號)

北海道廳 府縣

明治三十一年四月以降師範學校附屬小學校ノ授業料ハ明治三十年勅令第四百七號ニ依リ定メタル金額ニ準據シ之ヲ定ムヘシ

●福岡縣師範學校附屬小學校教科及編制

(明治三十四年四月二十七日福岡縣訓令第二五號)

第一條 附屬小學校ニ尋常小學校及高等小學校ノ教科ヲ併置ス

第二條 尋常小學校ノ教科ヲ授クル學級ヲ尋常科トシ高等小學校ノ教科ヲ授クル學級ヲ高等科トス

第三條 高等科ノ修業年限ハ四ヶ年トス

第四條 尋常科ノ教科目ハ修身、國語、算術、體操、圖畫、唱歌、手工トス但第三學年以上女兒ノ爲ニハ裁縫ヲ加フ (明治三十六年三月六日福岡縣令第一號ヲ以テ改正)

第五條 高等科ノ教科目ハ修身、國語、算術、日本歴史、地理、理科、圖畫、唱歌、體操、手工トシ女兒ノ爲ニハ裁縫ヲ加ヘ手工ヲ課セス男兒ノ爲ニハ隨意科目トシテ英語ヲ加フ但手工ハ第一學年ヨリ之ヲ課ス (全上改正及全三十七年三月縣令第一二號ヲ以テ改正)

第六條 尋常科ヲ五學級ニ高等科ヲ六學級ニ編制ス其定員左ノ如シ (明治三十七年三月)

尋常科	第四學年	五十人
全	第三學年	五十人
全	第二學年	五十人

福岡縣師範學校附屬小學校教科及編制

全	第一學年	五十人
全	單級	六十人
高等科	男第四學年	六十人
全	男第三學年	六十人
全	男第二學年	六十人
全	男第一學年	六十人
全	女第三四學年	六十人
全	女第一二學年	六十人

第七條乃至第九條 (明治三十五年二月福岡縣令第二號ヲ以テ削除)

●福岡縣師範學校附屬小學校授業料規則

(明治二十五年三月三十日福岡縣令第三七號)

- 第一條 師範學校附屬小學校ノ授業料ハ左ノ種類ニヨリ之ヲ徵收スヘシ (明治二十六年縣令第十六號明治三十一年縣令第一九號及全第四九號明治三十四年縣令第二一號ヲ以テ改正)
- 一 高等科 一人 一ヶ月金貳拾錢
 - 一 補習科 一人 一ヶ月金貳拾錢
- 單級ニ編制シタル兒童ノ授業料ハ之ヲ徵收セス
- 第二條 一家ノ兒童同時ニ數人就學スルトキハ上級一人ハ全額ヲ收メ他ハ半額ヲ收ムヘシ但補習科ニアルモノハ此員數ニ加ヘス
- 第三條 授業料ハ通貨ヲ以テ毎月始業日ヨリ五日以内ニ收納スヘシ
- 第四條 收納期日以後入學スルモノハ其當日收納スヘシ
- 第五條 授業料ハ其月半途ニシテ退校又ハ轉校スルモノアルモ之ヲ免除シ又ハ還付セサルヘシ
- 第六條 定期休業若クハ學校ノ都合ニ依リ全月休業スルトキハ其月ノ授業料ヲ徵收セサルヘシ
- 第六條 兒童疾病其他ノ事故ニ由リ全月缺課スルモ授業料ヲ徵收ス但全月以上ニ涉ルモノハ學校長ニ於テ其事由ヲ調査シ其以上ニ係ル授業料ノ全額若クハ一部ヲ免

福岡縣師範學校附屬小學校授業料規則

除スルコトアルヘシ

第七條 師範學校長ハ左ノ種類ニ限リ授業料全額若クハ一部ヲ免除スルコトヲ得

一 授業料ヲ負擔スヘキ學齡兒童若クハ其保護者貧窮ニシテ官廳又ハ市町村ノ救助ヲ受クルモノハ其全額ヲ免除ス

二 授業料ヲ負擔スヘキ學齡兒童若クハ保護者貧窮ニシテ兒童自ラ家計ノ助力ヲ爲サ、ルヲ得ナル者ハ其全額若クハ一部ヲ免除ス

第八條 師範學校長ハ學齡兒童保護者若クハ代人ニ於テ授業料ノ納入ヲ怠ルコト一ヶ月以上ニ涉ルトキハ其事實ヲ知事ニ具申シ指揮ヲ受クヘシ

第九條 授業料徵收ニ關スル細則ハ學校長之ヲ定ムヘシ

●福岡縣師範學校附屬小學校設備

(明治二十五年十二月十四日福岡縣廳達第七四號)

師範學校

明治二十四年(十一月)文部省令第二十六號師範學校附屬小學校規程第二條ニ基キ其校附屬小學校設備左ノ通相定ム

附屬小學校設備

一 附屬小學校ハ本年(六月)縣令第五〇號本縣師範學校附屬小學校修業年限學級編制教科目及補習科修業年限教科目ニ對スル學級及ヒ兒童人員ヲ授業スル目的ヲ以テ設備ス

一 校地ハ尋常師範學校敷地内ニ設ク

一 校舍及教室ニ容ルヘキ兒童ノ相當學年並ニ其員數等ハ別紙略圖ノ如シ

(圖ハ省ク)

一 校地内ニハ相當ノ體操場ヲ設ク

一 校具ハ授業上及ヒ參考上差支ナキ様之ヲ備フ

第五編
雜

◎第五編 雜

○學校傳染病豫防及消毒方法

明治三十一年九月二十八日
文部省令第二十號

學校傳染病豫防及消毒方法ヲ定ムルコト左ノ如シ

學校傳染病豫防及消毒方法

其一 豫防方法

第一條 學校ニ於テ特ニ豫防スヘキ傳染病ノ種類左ノ如シ

第一類

甲 痘瘡及假痘 實布埜利亞 猩紅熱 發疹蜜扶斯 ベスト (明治三十二年文部省

令第四十四號ヲ以テ本款改正)

乙 百日咳 麻疹 流行性感胃 流行性耳下腺炎 風疹 水痘 肺結核 癩病

第二類

赤痢 虎列刺 腸窒扶斯

第三類

傳染性皮膚病 傳染性眼炎

第二條 第一條第一類甲又ハ第二類ノ傳染病ニ罹リタル職員生徒等ハ昇校スルコト

ヲ得ヌ

前項ノ職員生徒等其傳染病治癒シタル後昇校セントスルトキハ先ツ全身浴ヲ行ヒ

學校傳染病豫防及消毒方法

テ衣服ヲ更メ且ツ醫師ニ於テ傳染ノ虞ナキコトヲ證明スルコトヲ要ス

第三條 第一條第一類乙又ハ第三類ノ傳染病ニ罹リタル職員生徒等ハ其病況ニ依リ醫師ニ於テ適當ノ處置ヲ施シ傳染病ノ虞ナキコトヲ證明シタルモノニアラサレハ昇校スルコトヲ得ス

第四條 職員生徒等ニシテ家族又ハ同居人中ニ第一條第一類甲又ハ第二類ノ傳染病ニ罹リタル者アルトキ又ハ學校内ニ傳染病發生シタル場合ニ於テ其患者、屍體又ハ病毒ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル物件ニ觸接シタルトキハ醫師ニ於テ適當ノ處置ヲ施シ傳染ノ虞ナキコトヲ證明シタル後ニアラサレハ昇校スルコトヲ得ス

第五條 教員各監等學校内ニ於テ第一條ノ傳染病者若クハ其疑アル者ヲ發見シタルトキハ直ニ之ヲ當該學校長ニ申告スヘシ學校長ハ醫師ヲシテ診斷セシメ相當ノ處置ヲナスヘシ

第六條 學校内、學校所在地及其近傍若クハ生徒通學區域内ニ於テ第一條ノ傳染病發生シタルトキハ其病況ニ依リ必要ト認ムルトキハ全校若クハ其一部ヲ閉鎖スヘシ (同上来條改正)

第七條 學校所在地若クハ其近傍ニ於テ第一條第一類甲又ハ第二類ノ傳染病發生シタルトキハ明治三十年文部省訓令第一號ニ從ヒ充分ノ清潔方法ヲ施行スヘシ但第一條第二類ノ傳染病發生シタルトキハ校舍内ニ於テ使用スル飲料水ハ煮沸シタル

モノヲ用フヘシ

第八條 生徒通學區域内ニ於テ第一條第一類甲又ハ第二類ノ傳染病發生シ其病況ニ依リ必要ト認ムルトキハ其局部ヨリ通學スル生徒ノ昇校ヲ停止スルコトヲ得此場合ニ於テハ當該學校長ヨリ二十四時間以内ニ其旨ヲ管理者ニ届出ツヘシ

第九條 傳染病ノ爲ニ閉鎖シタル學校若クハ其居室ハ再ヒ之レヲ使用スルニ先チ明治三十年文部省訓令第一號定期清潔方法ノ各項ヲ施行スヘシ

其二 消毒方法

第十條 學校ニ於テ第一條第一類又ハ第二類ノ傳染病發生シタルトキハ其屍體、排泄物又ハ病毒ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル物件ニ對シ左ノ區別ニ依リ消毒方法ヲ施行スヘシ但第一條第三類ノ傳染病發生シ其病況ニ依リ必要ト認ムルトキハ適宜本縣ノ消毒方法ヲ應用スヘシ

一 第一條第一類及第二類ノ傳染病患者ノ屍體、第一類ノ傳染病患者ノ用ヒタル睡壺、第二類ノ傳染病患者ノ上リタル圍房其他障壁、牀、疊、建具、寢臺、器具等ハ石炭酸水ヲ以テ消毒スヘシ

二 第一條第二類ノ傳染病患者ノ吐瀉物其他ノ排泄物ハ生石灰又ハ木灰汁ヲ以テ消毒シ強亞爾加里性反應ヲ呈スルニ至ルヘシ

三 食器、被服、寢具等ハ煮沸又ハ蒸氣消毒ニ附スヘシ

學校傳染病預防及消毒方法

四 消毒困難ニシテ廉價ナルモノハ之ヲ燒却スヘシ
五 前各項ノ消毒ニ適セサルモノハ之ヲ刷掃シ數日間日光ニ曝スヘシ

第十一條 消毒ニ供スル藥劑並其應用ハ左ノ如シ

一 石炭酸水(二十倍) 結晶石炭酸五分鹽酸一分水九十
四分ヲ攪拌シ溶解シタルモノ

本品ハ屍體、吐瀉物其他ノ排泄物、器具、居室、手足等ノ消毒ニ用フ又衣類
等ヲ消毒スルニハ熱酸ヲ加ヘサルモノヲ用フヘシ

二 生石灰末 生石灰ニ少量ノ水ヲ混キ崩壊セシメ
タルモノ但用ニ臨ミテ之ヲ製スヘシ

本品ヲ以テ吐瀉物其他ノ排泄物ヲ消毒スルニハ其分量ノ五十分ノ一ヲ用フヘ
シ又溝渠、芥溜、牀下等ヲ消毒スルニ用フ

石灰乳(十倍) 生石灰一分ニ水九分ヲ
攪拌混和シタルモノ

本品ノ應用ハ生石灰末ニ同シク吐瀉物、排泄物等ニハ其分量ノ五分ノ一ヲ用
フ

木灰ハ生石灰ヲ得ルコト能ハサル場合ニ於テ虎列刺病患者ノ吐瀉物、赤痢病
患者、腸壁扶斯患者ノ消毒ニ用フルコトヲ得其用量ハ吐瀉物、排泄物ノ五分
ノ一トス灰汁トシテ使用スルニハ木灰一分ニ水四分ヲ加ヘ之ヲ煮沸シテ製ス
ヘシ其用量ハ吐瀉物、排泄物ノ同容量トス但石灰灰、藎灰ハ木灰ト同一ノ效
ナシトス

三 格魯兒石灰水(二十倍) 格魯兒石灰五分ニ水九十
五分ヲ攪拌混和セルモノ

格魯兒石灰水ノ應用並用量ハ石灰乳ニ同シ但用ニ臨ミテ製スヘシ

附 則

第十二條 此省令ハ幼稚園ニ適用ス

○公立學校ニ學校醫設置方

明治三十一年一月八日
勅令第三號

第一條 北海道廳府縣郡市町村ノ設置ニ係ル學校ニ學校醫ヲ置ク

地方長官ハ特別ノ事情アルトキハ村立學校及人口五千未満ノ町立學校ニハ當分ノ
内學校醫ヲ置カサルコトヲ得

第二條 學校醫ハ地方長官之ヲ囑託ス

第三條 學校衛生事務ニ關シ學校醫ハ地方長官郡市町村長ノ諮詢ニ應シテ意見ヲ述
フヘシ又之ニ建議スルニトヲ得

第四條 學校醫ニハ其ノ學校經費ヨリ相當ノ手當ヲ給スヘシ

第五條 學校醫ノ囑託執務及其ノ他ニ關シ必要ナル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

(明治三十一年文部省令第六號ヲ以テ學校醫職務規程)
(同令第七號ヲ以テ學校醫ノ資格ニ關スル規程公布)

附 則

第六條 本令ニ於テハ北海道沖繩縣ノ區ノ設置ニ係ル學校ハ町立學校ト同視シ沖繩
縣ノ間切及島ノ設置ニ係ル學校ハ村立學校ト同視ス

第七條 市制町村制ヲ施行セサル地方ニ在テハ本令中市町村長ニ關スル規定ハ島司
郡長(北海道ニ在
テハ支廳長)區長戶長又ハ之ニ準スヘキモノニ適用ス

第八條 本令ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

○學校醫ノ資格 明治三十一年二月二十六日 文部省令第七號

明治三十一年勅令第二號第五條ニ基キ學校醫ノ資格ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一條 學校醫ヲ囑託スルニハ左ニ掲クル各項ノ一ニ該當シ且醫術開業免狀ヲ有スル者ノ中ニ於テスヘシ

- 一 帝國大學醫學科卒業ノ者
- 二 元東京大學醫學部醫學科本科又ハ別課卒業ノ者
- 三 高等學校醫學部醫學科卒業ノ者
- 四 元高等中學校醫學部醫學科卒業ノ者
- 五 大阪府京都府愛知縣醫學校醫學科卒業ノ者
- 六 元府縣立甲種醫學校卒業ノ者
- 七 試驗ヲ經テ帝國大學醫科大學國家醫學講習科ニ入學シ全科ヲ修了シタル者

(明治三十四年文部省令第一號ヲ以テ追加)

第二條 第一條ノ資格ヲ具フル者ヲ得難キ場合ニ於テハ明治十六年布告第三十五號醫師免許規則第二條又ハ第四條ニ依リ醫術開業免狀ヲ有スル者ニ囑託スルコトヲ得(全上)

(參照) 第三十五號布告醫師免許規則

第二條 開業免狀ヲ得ントスル者ハ試驗及第證書ヲ以テ地方廳ヲ經由シテ內務省ニ願出ツヘシ

學校醫ノ資格

第四條 外國ノ大學醫學部若クハ醫學校ニ於テ卒業シタル者或ハ外國ニ於テ醫術開業免許ヲ得タル者其卒業證書又ハ開業證書ヲ以テ開業免狀ヲ得ンコトヲ願出ツルトキハ內務大臣ハ其證書ヲ審査シ試驗ヲ要セスシテ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

○學校醫職務規程

明治三十一年二月二十六日
文部省令第六號

明治三十一年勅令第二號第五條ニ基キ學校醫職務規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

學校醫職務規程

第一條 學校醫ハ本令ニ規程アルモノノ外地方長官ノ命ヲ受ケ學校衛生ニ關スル職務ニ從事ス (明治三十三年文部省令第五號ヲ以テ改正)

第二條 學校醫ハ毎月少クトモ一回教授時間内ニ於テ當該學校ニ到リ衛生上ノ事項ヲ觀察スヘシ

學年ノ終及學期ノ始ニ於テハ特ニ當該學校ニ到リ觀察スルコトヲ要ス

第三條 學校醫ハ學校觀察ノ際左ノ事項ヲ調査シ之ヲ觀察簿ニ記入スヘシ

- 一 換氣ノ良否
- 二 採光ノ適否
- 三 机腰掛ノ適否
- 四 前列及最後列ノ机ト黑板トノ距離
- 五 煖爐ノ有無及煖爐ト最近生徒トノ距離
- 六 室内ノ溫度
- 七 圖書掛圖黑板ノ衛生上ノ適否
- 八 學校清潔方法實行ノ情況

學校醫職務規程

九 飲料水ノ良否

十 其ノ他衛生上必要ナル事項 (同上本條追加)

第四條 學校醫ハ學校視察ノ際疾病ニ罹レル生徒ヲ發見シタルトキハ其病症ニ依リ缺課休學又ハ療治ヲ爲サシムヘキコトヲ學校長ニ申告スヘシ

第五條 學校醫ハ明治三十三年文部省令第四號學生生徒身體檢査規程ニ依リ生徒ノ身體ヲ檢査シ身體檢査票ヲ調製スヘシ

學校醫ハ生徒ノ入學退學等ニ際シ學校長ノ請求ニ應シ其ノ生徒ノ身體ヲ檢査スヘシ (同上本條改正追加)

第六條 學校醫ハ學校ノ近傍若クハ學校内ニ於テ傳染病ノ發生シタルトキハ數次學校ニ到リ必要ナル豫防消毒方法ヲ施行シ尙其情況ニ依リ學校ノ全部若クハ一部分ノ閉鎖ヲ必要ト認ムルトキハ之ヲ管理者及學校長ニ申告スヘシ

通學生徒ノ所在地ニ傳染病ノ發生シタル場合ニ於テ通學生徒ノ昇校ヲ禁スヘキ必要ヲ認ムルトキハ之ヲ管理者及學校長ニ申告スヘシ

第七條 學校醫ハ衛生上必要ト認メタル事項ニ就テハ管理者及學校長ニ申告スヘシ

第八條 此規程施行ノ爲メ必要ナル細則ハ地方長官之レヲ定ムルコトヲ得

○圖書館令 明治三十二年十一月十日

勅令第四百二十九號

第一條 北海道府縣郡市町村 北海道及中樞
縣ノ區ヲ含ムニ於テハ圖書ヲ蒐集シ公衆ノ閱覽ニ供セム

カ爲圖書館ヲ設置スルコトヲ得

第二條 明治二十六年勅令第三十三號ノ規定ハ圖書館ニ關シ之ヲ準用ス

第三條 私人ハ本令ノ規定ニ依リ圖書館ヲ設置スルコトヲ得

第四條 圖書館ハ公立學校又ハ私立學校ニ附設スルコトヲ得

第五條 圖書館ノ設置廢止ハ其ノ公立ニ依ルモノハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ私立ニ係ルモノハ文部大臣ニ開申スヘシ

第六條 公立圖書館ニハ館長及書記ヲ置キ地方長官之ヲ任免ス

館長書記ハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受ク其ノ等級配當ニ關シテハ館長ニハ明治二十五年勅令第三十九號中判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル公立中學校教諭ニ關スル規定、書記ニハ公立中學校書記ニ關スル規定ヲ準用ス

第七條 公立圖書館ニ於テハ圖書閱覽料ヲ徵收スルコトヲ得

附 則

第八條 諸學校通則第三條中及小學校令中書籍館及圖書館ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

○視學官及視學特別任用令 明治三十二年六月十四日
勅令第二百六十號

第一條 文部省視學官ハ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ノ中ヨリ任用スルコトヲ得

一 二箇年以上文部省直轄學校ノ學校長又ハ委任教官ノ職ニ在ル者又ハ在リタル者

二 第二條第三號ニ該當スル者ニシテ一箇年以上道廳府縣視學官ノ職ニ在ル者又ハ在リタル者

第二條 道廳府縣視學官ハ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ノ中ヨリ任用スルコトヲ得

一 文部省視學官ノ職ニ在ル者又ハ在リタル者

二 二箇年以上官立學校ノ學校長又ハ委任教官ノ職ニ在ル者又ハ在リタル者

三 三箇年以上師範學校長官立公立中學校長官立公立高等女學校長又ハ官立公立實業學校長ノ職ニ在ル者又ハ在リタル者

四 五箇年以上道廳府縣視學又ハ郡視學ノ職ニ在ル者又ハ在リタル者

五 五箇年以上教育ニ關スル職務ニ從事シ現ニ判任官三級俸以上ノ俸給ヲ受ケル者

第三條 道廳府縣視學及郡視學ハ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ノ中ヨリ任用ス

一 三箇年以上師範學校官立公立中學校官立公立高等女學校又ハ官立公立實業學校ノ學校長教諭又ハ助教諭ノ職ニ在ル者又ハ在リタル者

視學官及視學特別任用令

- 二 小學校本科正教員タル資格ヲ有シ三箇年以上官立公立學校ノ學校長ノ職ニ在ル者又ハ在リタル者
- 三 五箇年以上判任官トシテ教育ニ關スル職務ニ從事シ又ハ從事シタル者

附 則

第四條 第二條ニ規定シタル在職年數ハ本令施行ノ際ニ限り其半數ニ減スルコトヲ得

第五條 本令施行ノ際現ニ地方視學ノ職ニ在ル者ハ道廳府縣視學ニ任用スルコトヲ得

第六條 本令中同號ニ規定シタル各職ノ在職年數ハ之ヲ通算ス
地方視學ノ在職年數ハ道廳府縣視學ノ在職年數ニ通算ス

○地方官官制中郡視學ニ關スル規定施行ノ際ニ
於ケル郡視學任用方 明治三十二年十二月五日
勅令第四百五十三號

地方官官制中郡視學ニ關スル規定施行ノ際現ニ郡視學ノ職ニ在リテ月俸二十五圓以上ヲ受ケ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ同規定施行ノ際ニ限り郡視學ニ任用スルコトヲ得

- 一 一年六箇月以上師範學校官立公立中學校官立公立高等女學校又ハ官立公立實業學校ノ學校長教諭又ハ助教諭ノ職ニ在リタル者
- 二 小學校本科正教員タル資格ヲ有シ三箇年以上官立公立學校ノ訓導ノ職ニ在リタル者

○學校清潔方法 (明治三十年一月十八日福岡縣訓令第三十九號)

郡役所、市役所、町村役場

學校ノ清潔ハ衛生上忽ニスヘカヲサル義ヲ以テ今般其筋ヨリ訓令ノ次第モ有之候ニ付自今別紙清潔方法ニ據リ嚴重施行シ各學校ヲシテ其清潔ヲ保タシムル様精々取計ラヘシ

(別紙)學校清潔方法

清潔方法ヲ分チテ日常清潔方法及定期清潔方法及浸水後清潔方法トス

甲 日常清潔方法

- 一 教室及寄宿舎ハ毎日人ナキ時ニ於テ先ツ窓戸ヲ開キ如露ヲ以テ少シク牀板及階段ヲ潤ホシ掃出シタル後濕布ヲ以テ建具校具等ヲ拭フヘシ但掃除ノ爲メニ室内ヲ潤ホスハ生徒ノ再ヒ之ニ入ルマテニ充分乾燥シ了ルヲ度トスヘシ
- 二 教室及寄宿舎ニ其人員ニ應シ紙屑籠ト少量ノ水ヲ盛レル唾壺トヲ備ヘ紙片其他棄却物ハ必ス紙屑籠ニ投入シ痰唾ハ必ス唾壺ニ於テシ決シテ室内廊下等ニ放下セシムヘカヲス

紙屑籠及唾壺ハ毎日之ヲ掃除スヘシ

- 三 寄宿舎内ニ於テハ戶外ニ於テ用非ル履物ヲ禁スヘシ但止ヲ得サル事情アリテ特

ニ之ヲ許ストキハ適當ノ方法ヲ設ケテ室内ノ不潔ニ陥ラサルコトヲ務ムヘシ

四 靴ノ儘昇降スル校舎ノ出入口ニハ人員ニ應ジ靴拭ヲ備フヘシ

五 寢具ハ毎月少クトモ一回之ヲ日光ニ曝シ被覆寢衣等ハ務メテ洗濯セシムヘシ

六 便所ノ尿溝及注壁等ハ毎日一回水ヲ以テ洗ヒ厠房ハ濕布ヲ以テ拭フヘシ樋箱ニハ成ルヘク蓋ヲ設クヘシ

七 糞壺内ニハ防臭藥トシテ粗製過滿俺、酸加里、粗製格魯兒滿俺（以上百倍乃至三百倍）硫酸鐵、泥炭末、木炭末、乾燥土粉、灰等ヲ撒布シ期ヲ愆ラス汲取ラシムヘシ

八 食堂ノ炊事場、浴室、洗面所、洗濯所等ハ時々窓戸ヲ開キテ空氣ヲ通シ惡臭煙氣又ハ湯氣ノ鬱滞ナキヲ務メ且掃除ヲ怠ルヘカラス殊ニ食堂ニ於テハ毎食前如露ヲ以テ牀面ヲ潤ホシ食後ニハ濕布ヲ以テ其食卓等ヲ拭フヘシ

九 芥菜場不潔物ハ期ヲ愆ラス搬送セシムヘシ
十 下水ハ常ニ疏通セシメ炊事場浴室洗面所洗濯所等ノ下水ハ毎月少クトモ一回大掃除ヲ行フヘシ

十一 庭園、体操場、遊戯場、簷下、椽下等モ亦々常ニ清潔ヲ保タシムヘシ
乙 定期清潔方法

定期清潔方法ハ毎年少クトモ一回夏休又ハ其他ノ長休ニ際シ之ヲ行フモノトス
十二 先ツ教室寄宿舎内等ニ在ル机懸掛寢臺戸棚等ヲ室外ニ出シ戸障子窓掛等ヲ外

シ敷物ヲ剝キタル後如露ヲ以テ牀板及廊下ヲ潤ホシ天井四壁牀板廊下等處ク之ヲ掃ヒ然ル後清水ヲ以テ洗拭スヘシ但汚染殊ニ甚シキ部分及器具ハ熱鹵汁若クハ石鹼水ヲ以テ洗拭スヘシ

十三 簷下牀下等モ手ノ届ク限リ之ヲ掃ヒ外部ノ羽目及簷廻リハ龍吐水等ヲ以テ洗滌スヘシ

十四 寢具、窓掛、敷物等ニシテ洗濯シ得ヘキモノハ之ヲ洗濯シ其洗濯シ得ヘカラスルモノハ先ツ其塵ヲ掃ヒ書籍、文具等ト共ニ數日之ヲ日光ニ曝シ刷新スヘシ

十五 器具、寢具等ハ總テ室ノ乾キタル後ニアラサレハ室内ニ持込ムヘカラス
室ハ掃除後五日間以上窓戸ヲ開キテ空氣及日光ヲ通セシムヘシ

十六 牀板、壁面等ニ腐蝕アルモノハ此際之ヲ填塞シ風抜穴、煙突等ノ塵煤ハ之ヲ除去スヘシ

十七 浴室、洗面所、食堂、炊事場、生徒控所、雨中体操場、便所、下水、芥菜場等ニシテ破損アルモノハ此際盡ク修理ヲ加ヘ且大掃除ヲ行フヘシ

丙 浸水後清潔方法

洪水ノタメ水害ヲ被リタル學校ハ開校前左ノ清潔方法ヲ施行スヘシ

十八 水ニ浸サレタル校舎殊ニ寄宿舎ノ建具、牀板等ハ取外シテ空氣ヲ通シ且牀下ノ汚物泥土ヲ除去シ場合ニ依テハ焚火、火鉢等ヲ用テ充分ニ乾燥セシムヘシ

- 十九 建具、牀具、校具、腰張等ノ浸水シタルモノハ清水又ハ熱湯ヲ以テ洗拭シタル後可成之ヲ日光ニ曝シ充分ニ乾燥セシムヘシ
- 二十 浸水ノ害ヲ被リタル井戸ハ必ス數回之ヲ浚潔シテ汚物ヲ除キ井戸側ハ清水ヲ以テ洗ヒ能ク水ノ澄ミタル後ニ之ヲ使用スヘシ但開校後一ヶ月間ハ必ス其水ヲ煮沸シテ飲用スヘシ
- 二十一 右ノ外定期清潔法ニ掲ケタル各項ヲ適宜應用スヘシ

●清國留學生規程 (明治三十四年一月十一日福岡縣令第一號)

- 第一條 清國留學生ハ東亞同文會ノ設立ニ係ル南京同文書院ニ入學セシメ同院所定ノ學科課程ヲ履修セシムルモノトス
- 第二條 留學生ハ左ノ資格ヲ具備スル者ニ就キ選定ス
 - 一 本縣在籍ノ男子ニシテ品行方正身體健全ナルモノ
 - 二 年齡滿十七年以上三十年以下ニシテ留學中家事ニ係累ナキモノ
 - 三 中學校卒業若クハ之ト同等以上ノ學力アルモノ
- 第三條 留學生ハ縣立學校長又ハ郡市長ヲシテ前條ニ該當スル候補者ヲ推薦セシメ檢定ノ上之ヲ選拔ス
- 第四條 留學生ニハ左ノ諸費ヲ支給ス
 - 一 學資 一ヶ月 金貳拾圓
 - 二 渡航及歸朝旅費 一人ニ付 金貳拾圓
 - 三 支度料 一人ニ付 金參拾圓
- 第五條 留學生疾病傷痍等ニ由リ半途退學ヲ命セラレタルトキハ其翌々月ヨリ學資ノ給與ヲ停止ス
- 第六條 留學生學事不進又ハ不都合ノ行爲ニ由リ退學セラレタルトキハ學資ノ給與ヲ停止シ既ニ給與シタル諸費ノ全部又ハ幾部ヲ償還セシム

第七條 留學生ハ同文書院卒業ノ日ヨリ三ヶ年間知事ノ指定シタル業務ニ従事スヘキ義務アルモノトス

前項知事ノ指定シタル業務ニ従事セサルトキハ留學中給與シタル諸費ノ全部又ハ

幾部ヲ辨償セシムルコトアルヘシ

第八條 留學生心得ハ別ニ之ヲ定ム

●清國留學生心得 (明治三十四年一月十一日福岡縣告示第八號)

第一條 留學生留學ノ命ヲ受ケタルトキハ直ニ保證人二名ヲ定メ第一號書式ノ誓書

ヲ差出スヘシ

保證人ハ本縣内ニ居住シ直接國稅五圓以上ヲ納ムルモノニシテ知事ニ於テ適當ト

認メタルモノタルヘシ

保證人死亡シ又ハ他ノ事故ニ由リ其資格ヲ失ヒタルトキハ更ニ保證人ヲ定メ誓書

ヲ差出スヘシ

第二條 留學生ノ縣地出發又ハ歸朝ノ期日ハ其郡度知事之ヲ指定ス但指定ノ期限内

ニ出發又ハ歸朝シ難キ事由ヲ生シタルトキハ其旨ヲ詳記シ知事ノ許可ヲ受クヘシ

第三條 留學生ノ海外旅券ハ當廳ヨリ交付ス

第四條 留學生留學地ニ到着シタルトキハ直ニ同文書院及知事ニ届出ツヘシ

第五條 留學生ハ毎學年ノ終ニ於テ修學ノ狀況ヲ詳具シ知事ニ報告スヘシ

前項ノ外清國ニ於ケル商工業其他ニ關シ調査シタル事項ニシテ必要ト認メタルト

キハ時々知事ニ報告スヘシ

第六條 留學生ハ自己ノ便宜ニ依リ半途退學スルニトテ許サス

疾病又ハ萬已ムヲ得サル事故ニ由リ歸朝ヲ要スルトキハ疾病ハ醫師ノ診斷書ヲ添

ヘ事故ハ其事實ヲ具シ知事ノ許可ヲ受クヘシ但事急劇ニシテ許可ヲ受クル暇ナキ

清國留學生心得

トキハ同文書院ノ証明ヲ受ツヘシ
前項ノ場合ニ於テハ歸朝後直ニ知事ニ届出ツヘシ
第七條 留學生ハ同文書院ノ規則ヲ遵守スヘキハ勿論凡テ該書院長ノ指揮監督ニ從
フヘシ

第八條 學資金ノ支給ハ毎年度四期ニ區分シ每期ノ初ニ於テ前金渡チナスヘシ
旅費ハ入學ノ爲出發又ハ卒業後歸朝ノトキ支度料ハ留學ヲ命シタル際之ヲ支給ス
學資金ハ縣地出發ノ月ヨリ始メ歸朝ヲ命シタル月ニ終ルモノトス

第九條 學資金其他旅費等ヲ受領セントスルトキハ直ニ第二號書式ノ請求書ヲ差出
スヘシ

第十條 留學生卒業後歸朝シタルトキハ速ニ歸朝届書ニ學業證書寫ヲ添ヘ當廳ニ差
出スヘシ

第一號書式 (用紙美濃紙)

印紙

誓書

今般南京同文書院入學ノ爲清國留學被命候ニ付テハ留學中並歸朝後トモ固ク御
規定ノ旨ヲ遵守シ誓テ違背仕間敷候仍テ誓約仕候也

年 月 日 福岡縣郡市町村大字番地

族籍及戸主トノ續柄

氏 名 印

福岡縣知事氏名殿

右誓約ニ係ル事件ハ私共ニ於テ一切引受可申仍テ保證候也

福岡縣郡市町村大字番地

族 籍

保證人 氏 名 印

同 上

同 氏 名 印

前書保證人ハ本縣ニ居住シ直接國稅五圓以上ヲ納メ保證人ノ責ニ任シ得ヘキ
者ニ相違無之候也

年 月 日 市町村長 氏 名 印

第二號書式 (用紙半紙野紙)

請求書

一金

清國留學生費

内 譯

清國留學生心得

金 金 金

學資明治何年月ヨリ何年月迄何ヶ月分一ヶ月金貳拾圓
旅費(渡航又ハ歸朝)

支度料

右御渡相成度候也

福岡縣郡市町村大字番地

年 月 日

清國留學生 氏 名

①

福岡縣知事氏名殿

○市町村ノ廢置分合等ニ因リ消滅スヘキ學校幼稚園及兒童教育
事務委託ノ存續ニ關スル規定 明治三十四年十月二十五日
勅令第九十七號

第一條 市町村ノ廢置分合若ハ境界變更ニ因リ消滅スヘキ尋常小學校及兒童教育事
務ノ委託ハ府縣知事ノ定ムル期間内ニ於テ之ニ代ルヘキ施設ヲ終ル迄仍存續セシ
ム

第二條 市町村ノ廢置分合若ハ境界變更ニ因リ消滅スヘキ高等小學校及其ノ他ノ學
校、幼稚園ニ付テハ府縣知事ニ於テ期間ヲ定メテ之ヲ存續セシムルコトヲ得
前項ノ期間ハ一箇年ヲ超ユルコトヲ得ス

第三條 本令ノ規定ニ依リ存續シタル學校及幼稚園ノ管理者ハ監督官廳ニ於テ之ヲ
定ムヘシ

前項管理者ノ職務ニ關シテハ府縣知事ノ定ムル所ニ依ル

第四條 本令ノ規定ニ依リ存續シタル學校、幼稚園及兒童教育事務ノ委託ニ關スル
費用ハ從來其ノ費用ヲ負擔シタル區域ノ屬スル市町村ニ於テ之ヲ負擔スヘシ
前項ノ費用ヲ數町村ニ於テ負擔スヘキ場合ニ在リテハ郡長ニ於テ郡參事會ノ意見
ヲ聞キ、市ト町村トニ於テ負擔スヘキ場合ニ在リテハ府縣知事ニ於テ府縣參事會
ノ意見ヲ聞キ其豫算及分擔額ヲ定ムヘシ

本令ノ規定ニ依リ存續シタル學校、幼稚園及兒童教育事務ノ委託ニ關スル收入ニ

市町村ノ廢置分合等ニ因リ消滅スヘキ學校幼稚園及兒童教育事務
委託ノ存續ニ關スル規定

付テハ前二項ノ規定ヲ準用ス

第五條 本令ノ規定ハ市町村ノ廢置分合若ハ境界變更ノ爲町村組合、町村學校組合ノ解散スル場合ニ於テ消滅スヘキ學校、幼稚園及兒童教育事務ノ委託ニ關シ之ヲ準用ス

附 則

第六條 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第七條 本令ハ市制町村制ヲ施行シタル地ニ於テ之ヲ施行ス

○學校名稱ニ道廳府縣郡市町村私立等ノ文字冠用方

(明治三十四年四月二十日文部省令第十一號)

師範學校及小學校ヲ除ク外學校ノ名稱ニハ費用負擔ノ區別ニ從ヒ道廳府縣立、郡立、市町村立又ハ私立等ノ文字ヲ冠スヘシ
既設學校ノ名稱ハ前項ニ依リ本令施行ノ日ヨリ六箇月以内ニ改稱シ當省ヘ開申スヘシ